



Young Warehouse

倉青協創立20周年記念誌

倉庫業青年経営者協議会



Young Warehouse

目次

会長あいさつ	創立20周年を迎えて	鈴木威雄	P.1
祝詞	環境変化と変革	本保芳明	P.3
	倉青協創立20周年を記念して	原 五郎	P.5
	創立20周年の所感	尾関尚司	P.7
歴代会長あいさつ	創立20周年によせて	鈴木又右衛門	P.9
	国際倉連と日倉協国際交流委員会	河野鉄雄	P.11
	日本縦貫倉庫グループについて	古川浩司	P.13
	弛まぬ研鑽とチームワークに敬意	安田 肇	P.15
	倉青協よ永遠なれ	西尾忠朋	P.17
	TQC大会について	小泉駿一	P.19
	そうせい訓	山本信彦	P.21
座談会 Part-1	創立20周年の倉青協を語り合う		P.23
寄稿	シンボルマークとビックポケット	大竹広明	P.27
	C.Pクラネットのお話	結城幸彦	P.29
座談会 Part-2	われら若手にとっての倉青協は		P.31
年表	倉青協20年の歩み		P.35
	全国開催地map		P.43
	会員名簿		P.45
	倉庫業青年経営者協議会 会則		P.51



会長あいさつ

創立20周年を迎えて

倉庫業青年経営者協議会は1973年5月に設立され、今年で20周年を迎えることになりました。この間に外部の皆様から我々に頂いたご指導、ご鞭撻に深く感謝の意を表すとともに、会員各位のご協力に感謝申し上げます。

20年といえば人間でも成人式を迎える年でもあり、倉青協の過去の歩みを振り返り、その上で将来展望について、いま一度考えてみるのも有意義なことではないかと考えます。

倉青協はその生い立ちから「青嵐会ではないのか」など、様々な誤解や、時には過度の期待も育ったのかも知れません。私は創設当初からのメンバーではありませんので、残念ながら当時の細やかな事情は知りませんが、現在の倉青協は日倉協と友好な関係を保ちながら、独自の活動を活発に続けていると言っていいでしょう。倉青協の第一の目的は、活動を通じて若手の倉庫業の経営者同志の親睦を深め、情報交換などを通じて、我々が共通して持っている悩みや、感じている問題点を議論することだと思っています。そして、その中から日倉協と共に行政官庁にも働きかけて、よりよい物流環境を作り出すための努力をしたり、新しい法律の制定などを働きかけるといった活動も必要になってくるのかも知れません。そして、そのような議論や活動の中から個々のメン



鈴木 威雄

倉庫業青年経営者協議会 会長
株式会社富士ロジテック 取締役社長

バーが、新しい企業活動の糸口を見いだすことも可能ではなかろうかと考えています。

幸い、歴代会員の方々の努力もあって、倉青協の活動の中から、日本縦貫倉庫グループやCPクラネット、押入れ産業など倉庫業の歴史に名を残すような有意義な成果も生まれましたし、TQC活動や、様々な研修を通じて、我々若手の経営者の感じている問題点に対する共通認識も生まれてきたように思います。最近は家族を含めた交流も盛んに行なわれるようになり、勉強ばかりではない、親睦の成果が上がってきているように感じられることもうれしい限りです。このような交流によって本当の意味での信頼感が経営者同志で生まれ、なかなか他人には相談できないような経営上の問題なども含めて議論し、相談することができる場として、倉青協の存在価値が高まってくるのだと考えられるからです。

一方において、創立後20年も経つと当時とは社会状況も大きく変わって、創立時には大きな問題だった事が、時代とともに意味が薄れ、それとともに創立時には存在しなかった種類の問題が、経営上大きな障害になるというようなケースが生じているかも知れません。そのような意味からも、成人式を迎えて今後の会の進むべき方向なども見直してみることも必要のように思います。

倉青協も創立当初からのメンバーはほんの数名しか残っていません。現在の大多数の会員（創立時には加盟していなかったメンバー）のニーズを反映させるためにはどのような活動が必要なのかという問題提起をして、次の会長にバトンタッチをすることに致します。

環境変化と変革

倉庫業青年経営者協議会20周年に当たり一言ご挨拶申し上げます。

本稿の依頼を受けて以来、何を書くべきか迷っておりましたが、先日、某セミナーで本協議会会長の鈴木威雄氏の講演を拝聴する機会に恵まれ、そこでやっと題材を得ることができました。「新時代を担うわが社の物流方策」と題された氏の講演は、同席していた友人が、全講演の中で、最も魅力的で興味深かったと評していましたが、実際、経営はもとより経営学にも素人の私にとって、含蓄に富んだ有益な情報に溢れるものでした。その全てに触れることは、私の無知を明らかにするばかりであって、適当でもなく、また、本稿の読者に想定されている経営者の皆様にとっては退屈な部分もあるいはあるかと思われますので、本稿を展開する上で必要最小限のものということで一点だけ触れさせて頂きたいと思います。ここで鈴木氏の講演を勝手に引用する失礼については、本会会長職の受認義務の範囲内であることを期待し、この紙面をお借りして、お許しを願いたいと存じます。

ここで触れさせて頂きたい点は、氏が講演の中で引用したマサチューセッツ工科大学のチャンドラー教授の言葉、「企業は、環境の変化に、内部組織を適応させて、成長し続けなければ存続できない。」です。この言葉を氏が如何に敷衍されたかについては述べませんが、役所にも当てはまることと深く得心した次第です。（尤も、成長のない役所と企業とを一緒にされてはかなわないと一喝される方もいらっしゃるかも知れませんが。）

講演後、このチャンドラー教授の言葉を、物流の世界に適用することを考えてみました。先ず、倉庫業あるいは物流業に係わる者にとっての環境変化ですが、地球環境問題、労働力問題等物流を取り巻く流れは様々です。しかしながら、現在の物流企業の存続に決定的な影響力を有する環境条件の変化といえば、物流効率化の動きに止めをさすというのが結論でした。

「また物流効率化か」耳にタコができたと感じられる方も多いかと思います。実は、ある若手経営者に「あなたの挨拶の良いところは、物流効率化を言わないことだ。」と褒められた(?)こともあり、この言葉を持ち出すことには若干の抵抗のあるところですが。

しかし、大手荷主が次々に打ち出している物流システム化、物流部の新設・強

本保芳明

運輸省 運輸政策局貨物流通施設課長



化等の合理化対策、物流企業の様々な対応努力等に謙虚に耳を傾ければ、滔々たる流れを感じざるを得ません。これほど多くの関係者が物流効率化を口にするごと自体が、日本人の横並び体質を考えると大変なことであり、これが明らかな意識改革を結果し、その影響が深部に及んで行くことは必然と思われる。

勿論、だからといって、物流に関係する企業の全てが物流効率化の優等生になるわけではなく、旧態依然たる荷主なども相当程度残ることは確実です。従って、旧来のサービス提供に止まっても、成長は望めないまでも、当面直ぐに支障を生ずることはないと思われます。しかし、長期的な方向性を失うことは、明日を失うことであり、成長を考える若手経営者に許されることではありません。先ほど引用した言葉に戻れば、「成長し続けなければ存続できない」はず。

それでは、物流効率化の具体的方向性はと問われると、必ずしも共通の理解はないように思われます。ここでは、取り敢えず個人的見解という断り書きつきで、「適正なサービスと適正なコストのバランスの実現」として置きたいと思えます。

これを実現する方策・回答については、究極の答えは、「各経営者がそれぞれの経営資源に応じて考えるべきこと。」ではないかと信じます。これでは逃げ口上ではないかと思われるために、もう少し踏み込んで申し上げたいところですが、従来の単品のサービス対応の内部組織では限界にきているとまでは言えても、これ以上は、正直なところまだ自信を持って断言できるものではありません。しかし、主なキーワードは、広域性、総合性、システムの対応、情報、ネットワーク、連携といったあたりではないかと見当をつけています。鈴木氏の指摘されるフレキシビリティも含まれると思います。その先は、現在私どもの方で進めている昭和60年の倉庫ビジョンの見直しの中で、運輸省の考えをまとめ、皆様にご提示して行きたいと考えています。新しいビジョン作成に当たっては、当然皆様のお考えを十分に反映させる必要があると思っておりますので、この場をお借りして作業へのご協力等をお願い申し上げます。

散漫なものとなってしまいましたが、「青年」の名に相応しいチャレンジ精神に富んだ柔軟な経営姿勢による社業の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念して、私のご挨拶とさせて頂きたいと存じます。

倉青協創立20周年を記念して

倉庫業青年経営者協議会の創立20周年に当たり、ひとことご祝詞を申し上げます。

貴協議会は昭和48年5月会員相互の親睦と倉庫業の発展と社会的地位向上を目的に創設されました。当時は日本経済が第一次オイルショックにより高度経済成長から低成長への移行を余儀なくされた経済環境の変動の激しい年だったように思います。

以来20年、時代も昭和から平成に変わり、世界的には倉青協創立当時想像もしなかった旧ソ連邦の消滅をはじめとする社会主義体制の崩壊など国内・外の社会情勢は一変し、わが国経済もこの間において二度にわたるオイルショック、円高不況を経験するなど事業経営にとり、決して平坦な道のりではありませんでした。一方物流のニーズも高度化・多様化が進展し、さらにここ数年の好景気を背景とした物流量の急増により、新たに物流の効率化が社会の要請として求められるなど、倉庫業界にとりまして多くの困難な課題を抱えた20年間でしたが、貴協議会におかれては、初代鈴木会長の創設意志を歴代会長が引き継がれ、着実に倉庫業の発展を遂げられたことは、まことにご同慶にたえません。また、日倉協の活動に対し、機会のあるごとに新風を送り込んでこられたことに厚く感謝の意を表します。

倉青協の皆様方は、その活動を単なる親睦ではなく、倉庫業が抱える今日的、将来的課題に対し、視察、見学、識者を交えての議論等、様々な場を通して問題意識を高められ、さらに一歩踏み込んで具体化される実行力、行動力には大いに敬服する次第であります。

倉青協にはこの20年間の活動を通じて、多くの成果をあげられておりますが、その第一はCPクラネットの創設であります。近年物流への社会的要請の一つとして総合化という問題がありますが、当業界においては中小事業者が多いことから総合化も困難な面があり、日倉協としても従来から協業化、協同化の必要性を会員の方にお話ししております。まさにその事業体制を十数年前に構築された先見性は高く評価されるものであり、今後業界の進むべき方向を示唆していると言えます。

原 五郎

社団法人日本倉庫協会 会長
三井倉庫株式会社 取締役社長



また、ここ数年労働力不足がクローズアップされたことから、業界のイメージアップを図ることが重要な課題となっております。倉青協では「ビックポケット」「ヤングウェアハウス」の商標を創り出すことにより倉庫の新しいコンセプトを打ち出されており、業界活性化、イメージ向上に関し大変有効な試みと思います。

さらに国際化はわが国にとり今後ますます重要な問題になることが考えられますが、倉青協の皆様方が、日倉協が国際倉連年次大会に参加するに際し、多くの方が率先して参加されてきたことは、国際化の重要性を十分に認識されている現われであり、業界全体の意識向上に多くの貢献をされているものと思います。

これからの倉庫業界をとりまく環境は、今回の平成不況を機に、企業間においては物流の見直しの機運が高まる中、大幅な物流量の増大は期待できないこともあり、一段と厳しくなることが予測されます。倉庫業者としても物流環境の変化に対し、適切な対応を図ることが企業の発展にとって避けて通れません。

今後も創設以来培ってこられた会員同志の連帯意識と数々の実績を礎に、このような難しい時代を乗り越えられ、貴協議会が一層の飛躍を遂げられることを期待します。

最後になりましたが、倉青協OBで結成されている「日本倉庫経営者倶楽部」の皆様にも心からお慶び申し上げて、私のご祝詞といたします。

創立20周年の所感

倉青協がこの度創立20周年を迎えられましたこと誠におめでとうございます。初代、鈴木又右衛門会長を始め、現在の鈴木威雄会長に至る歴代会長の卓越したリーダーシップのもと、物流革新下の倉庫業のあるべき姿を模索する場に結集された青年経営者は現在、90名を擁する倉青協へと隆盛をみるに至りましたことに對し、深甚なる敬意を表する次第であります。

この間第一次、第二次オイルショック、円高不況、更にはバブルの崩壊、複合不況と幾多の試練を経て、今日ここに創立20周年を迎えられました。私も倉青協創立の2年目に入会させて頂き、「アメリカンクラブ」に於ける10周年記念式典に参加したのがつい先頃の如くに思われます。

年齢制限により、倉青協を卒業されたメンバーの殆どの方が、日倉倶楽部にて活躍しておられ、その数も60名を越えるに至りました。倶楽部では倉青協時代に培った、研鑽と親睦をベースに業界の地位向上のため、日倉協の各委員会での活躍、また各地区協会においても指導的役割を果たしておられます。最近ではチャーターメンバーの二世の方々、或は倉庫業界の若き経営者も入会され、お互いに協調し、情報ネットワークづくりをされるなど業界に新しい息吹を入れられており、大変嬉しく思います。

時代の変遷の中、その時々々に的を得た対応と、加うるに倉青協の若さと叡智は、倉庫業の経営基礎を確立させ、更には社会的地位の向上に貢献してきたものと言えましょう。

倉庫業が物流業と言われるようになって久しい。保管をはじめとした一連の物流関連サービスは、荷主の倉庫業に対するニーズではなく、物流全体に対するニーズであるべきだと思えます。

このサービスを提供するものが、倉庫業者でなくとも、トラック業者、若しくは物流関連の他業者でも良いのであります。倉庫があつて物流があるのではなく、物流があつて倉庫が利用されるのであります。

尾関尚司

日本倉庫経営者倶楽部 会長
濃飛倉庫運輸株式会社 取締役社長



換言すると、倉庫に保管するのが目的ではなく、倉庫を利用するのは物流のための手段にすぎないのです。荷主のニーズにどう応え得るか、倉庫業者としてどのようなサービスを提供し得るかを問われているのであります。社会環境の変化を的確に把握することができる倉青協会員各位の若さと、透徹した洞察力に期待するものであります。

ここに20周年の節目を迎えるにあたって、奇しくも経済環境は、創立当時のオイルショックによる世界同時不況と同じ様相を呈してきました。

日本の産業界は、内外の要因により基幹産業である自動車、電機、紙パルプにはじまる生産調整は経済成長の停滞を招き、失業者の増加となり、苦境の中に呻吟しております。世界の目も日本の一挙手一投足に集っており、不況に強い、この業界も出口のない不況の波をもらにかぶって、荷動きは緩慢化し、在庫貨物は目に見えて減少しております。このような環境下にあつてこそ、倉青協の存在価値は一層貴重なものとなってきます。創立当初の研鑽と親睦をモットーにして、経営者としての幅広い資質の向上と親睦の実をあげてこられました。今こそ、その成果のすべて、若き力とその叡智の結集こそ、この難局を打開することが出来得ると信じます。倉青協の一層の発展を祈念して、20周年を心からお祝い申し上げます。

創立20周年によせて

倉庫業青年経営者協議会がこの度20周年を迎えることができ誠にありがとうございます。創立以来今日まで運輸省ご当局並びに日本倉庫協会の暖かいご指導、ご鞭撻と歴代会長をはじめ、会員皆様方のご支援ご協力を頂きましたことに対し衷心より感謝とお礼を申し上げる次第でございます。

顧みると昭和41年に日本倉庫協会の評議委員会が別府において開催され、当時神戸の森本氏と私が出席しておりました。

そこでいろいろな話の中で公私にわたって共通点が多く、なんとか業界の若手経営者を結集し社会的地位の向上と意識改革を旗じるしに若手経営者の会をつくることに合意しました。

その後47年に札幌の評議委員会で、天満倉庫小西池氏、葵倉庫浜口氏(故人)をはじめ多くの方々のご賛同を得て48年5月に創立することになり、全国の若手経営者に呼びかけたところ100社以上の参加の申し出があり大変意を強くしたものであります。特に創立当時から運輸省の歴代倉庫課長、貨物流通施設課長をはじめ東京倉庫協会会長八十島親義氏(故人)の力強いバックアップがあり、今日を迎えることができた心から感謝をしています。

設立当初は先ず“親睦と勉強会”を中心に運営して会員同志の意志の疎通を図ることに努めました。全体会では運輸省ご当局をはじめ業界の先輩並びに政治、経済、文化、芸術のあらゆる面で一流の方々を講師としてお招きし勉強会を開催して好評を得ておりました。



鈴木又右衛門

太成倉庫株式会社 取締役社長

その後ケースバイケースで業務提携、助け合いを推進し、自己研修と共に業界活動に積極的に参加して参りました。20年を経た今日ではお陰をもちまして、日本倉庫協会の常任理事においても設立当時は森本氏だけでしたが、現在では日本倉庫経営者倶楽部、倉庫業青年経営者協議会会員が非常に多くなり大きな力となっておりますことは誠にご同慶にたえないところであります。

この20周年(成人式)を契機として会長を中心とし、更に会員相互の親睦と研修を積み重ねられ、ますます充実・発展されますよう祈念すると共に業界のためそして地域社会のためにも一層のご尽力を頂きますよう心から願い期待をしているものであります。

今後共、倉庫業青年経営者協議会の先輩である日本倉庫経営者倶楽部のご指導、ご鞭撻を頂きながら常に創立の原点を忘れることなく地道な努力をして頂き、更なる発展をして頂きたいと考えております。

終わりにこの20周年を心からお祝い申し上げますと共に皆様方のご健勝とご繁栄を祈念してごあいさついたします。

国際倉連と日倉協国際交流委員会

1977年5月倉青協会長に指名された私は、毎年1度の海外研修旅行を提案し、早速第1回として米国研修旅行を実施し、翌78年には第2回として欧州研修旅行を行うことを決めた。研修日程を検討していたところ、世界倉庫業連盟総会（IWFPA）が5月にアテネで開催されるという情報を得、行ってみようよということになり、欧州研修の日程の最後にアテネを加えることを打ち合わせた。

しかし、日倉協に断っておかねばと日倉協を訪問したところ、日倉協では既に世界倉連に加盟し年会費は支払っているが、今のところ大手会員会社の欧米駐在員に交替で一人宛出席してもらっている現状で、日本が団を組んで参加しはじめると、必ず日本でも総会開催をしてくれということになり厄介だからと、我々の参加には消極的な考えを示された。私は、オブザーバーで参加するなら差し支えないでしょうと説き伏せて、国際倉連にオブザーバーとして倉青協メンバー14名の参加を通告した。アテネの総会に行くと、日本からよく来たが大歓迎を受け、他の国ではまれな日本に於ける倉庫業法により、保護、監督されている状況、大きな日倉協の組織運営の実態等に関心をもたれ、いろいろな質問を浴びることになった。最終日には、来年は香港で総会を開催するため、日本からは近いので是非多数参加されるようにとの要請を受け、意気揚々と帰国した。

翌79年4月に日倉協は、北野旭倉庫社長を団長とする37名の代表団を組んで香港総会に参加し、大歓迎を受けた。総会終了後、日本代表団はシン



河野鉄雄

湘南倉庫運送株式会社 取締役社長

ガポールに立ち寄ったが、その道中私は、日倉協事務局から参加の高味専務理事、岡本業務部長のお二人に、この上は日倉協に対応する委員会を設置すべきだと意見具申をしたが、お二人は、今でも11もの委員会があり、委員会の増設は困難との見解を示された。私は、これから先は、毎年国際倉連の理事会と総会にはお二人に行ってもらうことにもなるしと食い下がった。

シンガポールからの帰国の機中で私は、参加した倉青協メンバーにも協力してもらい、日倉協会長宛の国際委員会設置の建白書を作り、帰国の翌朝北野団長を訪ね、日倉協への取次ぎをお願いした。一方国際倉連会長、副会長は香港の帰路日本に立寄り、日倉協を訪問し、これを機に引続き日本に参加協力して欲しいとの要請を行った。

日倉協は、委員会設置について反対意見もあったが、80年に国際交流委員会設置を決定し、世界倉連実力理事国としての一步を踏み出した。

その後83年、90年にはそれぞれ日本が連盟会長として東京総会を成功させたのは御承知の通りである。

倉青協が20年の歩みの中で、業界にまた、日倉協に新風を吹き込んだ事例は枚挙にいとまがないが、その中の一つとして世界倉連への参加、日倉協国際交流委員会設置に果たした倉青協の役割をこの機に諸兄にご報告した次第である。

日本縦貫倉庫グループについて

20年前、1973年、倉青協が発足して間もなく、種々の委員会が構成されましたが、その中に協業化委員会がありました。同業者仲間の中で事業の色々な面での協業化が出来ないものかという問題が提起されました。

当時でも倉庫業の将来はそれ程ピンク色に輝いている訳でもなく、特に地方の中小業者の中には危機意識を持っていた会員も少なくありませんでした。当時、この協業化委員会の委員長は河野さんで、私が担当していた国際委員会と合同で委員会を開催し、その時に仲間の中でネットワーク化を図ったらどうかという案が出されました。

倉青協が主催して米国の倉庫業界を視察した際、あちらにはこのネットワークの網が縦横に存在し、その中で1つ2つとネットワーク同志をリンクさせるアイデアもその時に出た訳です。米国でのこの種のネットワークの誕生の経緯などを勉強し、その目的とか現実はどういう活動をしているかなどということを知りました。全米に張り巡らされているあるネットワークを利用している荷主企業もかなり存在していたわけです。日本でも是非これを参考にして、倉庫業グループを作り上げ、協業化のサンプルを倉青協の1つのフルーツにしたら、という案がまとまりました。発足当時は日本全国を8つの地域に分け、1地域から1社、合計8社で構成したものが出来上がったのが、日本縦貫倉庫グループ(AWJ)となった訳です。現在ではそれが12社となりましたが、そこで行って来た活動はそれぞれの会社の経営者、重役、幹部そして一般社員にグループ内の各社を訪問させ、この組織の全般を知ること、各社の優れた点を吸収し、自社に採り入れ、グループ全体のレベル向上に役立てようとしたこと、それぞれが持っていた荷主の貨物の勉強をしたこと、コンピュータの協同化を図ろうとしたことなど、実にさまざまでした。

グループ内の仲間同志が密接な意志の疎通を図るために酒も大いに役立ちました。これからは色々な研究、勉強をしていきたいと思っております。



古川 浩司

芸備倉庫株式会社 取締役社長

現在から6年程前ですが、メーカー物流にのみ重点を置いていた倉庫業の中で、宅配便ではありませんが、一般消費者を対象とする消費者物流を掘り起こしてみようという考えが仲間のうちから出て来ました。いわゆる「押入れ産業」ですが、これも全国至るところに立地している倉庫業者のネットワークを作り、フランチャイズシステムを構築し、新規事業として育てようとしてきたわけです。

押入れ産業のメンバーの中にはすでに30社を超える倉青協の会員がありますが、そこで知り合った仲間の輪が、各地での実際の新規事業の展開に結びつくよう、これからも種々の勉強をみんなでやっていこうと思っております。この事業を開始するにあたっては、日本を代表する大手の企業が続々と出資に応じて頂き、その意たるやまさに壮とるところです。

倉青協の過去会員、現会員のみさんのこのネットワークへのご参加は、大歓迎するものです。

※AWJ= Allied Warehouses of Japan



弛まぬ研鑽とチームワークに敬意

倉庫業青年経営者協議会の創立20周年を心からお祝い申し上げます。

一致団結してこの素晴らしい組織の発展、継続に努力された歴代会長はじめ会員各位に心から敬意とお慶びを申し上げます。

思い起こせば10周年記念行事の挙行から早や10年、この間世の中は思いも至らなかった激しく且つ厳しい動きが続き、つくづくその変化の大きさに驚きを禁じえません。

当会創立時の「目的」や「運営」については、10周年記念誌に諸先輩が触れておられますので、ここでは私個人の感想を一言述べさせていただきます。

会員であった10年間、OBとなり日倉倶楽部会員となつての10年を通じて、全体会や総会の際は勿論のこと倉青協メンバーを知ることにより「倉庫業経営」、「経営者のあり方」から「人生の楽しみ方」までを指導教育いただいた先輩、友人方を多数得ることができましたことは、計り知れない財産であるといへん感謝しております。

そして総会、全体会では少しも身構えることなく、同じ悩みや喜びを共有し得る同年代、同業の経営者の方々と裸の意見交換ができる誠に良き学校であり、また、親しみもてる社交の場を提供して貰える貴重なチャンスと何時も楽しみにしております。

最近少々残念なのは我々卒業生との懇談の場が少なくなり、若手会員の方々と話す機会が得られない感があることです。



安田 肇
大黒倉庫株式会社 取締役社長

現在国際的に厳しい環境から、我が国経済界の生き残りをかけた合理化の皺寄せが、我々物流業に対し種々の要請となって重くのし掛かってきております。さらに労働時間問題や休日増加など皆さんと力を合わせてクリヤしていかななくてはならない問題も山積しております。

このような時にこそ、当会の特性である若さを十二分に発揮し、この素晴らしい組織を通じて皆さんで知恵を出しあい、会員企業の発展とメンバーの成長に寄与する強い組織体として行動する必要があると思います。

このように有意義で親しみのある「倉青協」を今後とも維持、発展させ次の21世紀、30周年に向かって皆さんで力強く活動し続けていかれるものと更なる発展を大いに期待しております。

倉青協よ永遠なれ

昭和48年私はまだ30才になったばかりであった。大学卒業後、濃飛倉庫運輸㈱に5年お世話になり、当社に帰ってきて3年目、長男も生まれ正に私自身の出発点でもあった。

丁度その時に森本さんや鈴木(又)さんが業界の若手の会を作るといふ、当時自民党にも“青嵐会”という若手の会があり、私の祖父などは「青嵐会みたいなことするなよ。あくまで業界あつての企業で、好んで秩序を乱すなよ。」と熱弁をふるっていたのを思い出す。それから数ヶ月後に祖父が亡くなったので、私に対する遺言みたいに受け止めている。

当時はメンバーのほとんどが各地区協会の役員をし、日倉協に於ても評議員か役員で、倉青協の会に出ると全国の状況や各社の仕事の取り組み方などすべて瞬時にわかり、出発点にいた私は先輩諸兄の創業者や二世三世としての彼等の生の体験談が大変勉強になり、今日いまがあると感謝している。その会に少しでも恩返しのためにも会長をお引き受けしたのですが、その私が会長をした時から倉青協も停滞期に入ったような気がして、私の不徳のいたすところと先輩には誠に申し訳なく思っている。

また忘れ得ない人として、イヌイ建物の乾さんがいる。彼は甲南の中高大と私の一年先輩で、家も近所であった。そのわんぱくぶりでも有名だった彼と同じ業界で仕事をするとは全く世の中わからぬものである。倉青協では彼はよく甲南3バカトリオプラスワン(乾、私、末長、そして上村女史)と言って、よく面倒を見てくれた。彼は休肝日を決めて健康には十分注意していたが、元来の酒好きでよ

西尾忠朋

株式会社西尾倉庫 取締役社長



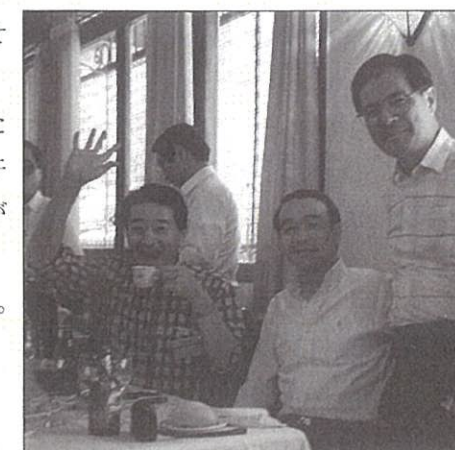
く明日は休肝日だから昨日は休肝日だったからと浴びるほど飲んでた。そして「俺は頭の切れる偉い人とばかり飲んでるから気が安まらん。お前みたいなバカと飲んでるのが一番楽しい。」と言うのが口グセだった。もっと私が飲む機会を作っていたらと後悔している。40半ばの惜しまれる急死であった。

また、会長時代に国際倉連に倉青協から誰も行かないので責任上、洪々行ったがやみつきになり、いまや常連メンバーになってしまったのも楽しい思い出である。これからの若い人の中からも早く後継者が出てほしく思う。

倉青協も世代交代の大きな曲がり角に来ている。しかし、発足当時の基本線と「勉強」と「親睦」の精神を忘れず、時代に応じた発展をしていただきたいと思う。

あれから20年、私も50才になり、後ろ髪を引かれる思いだが、今年で卒業させてもらう。あの時生まれた長男が本日、“東大の法科にめでたく入学”の報をたつた今受けた。時に平成5年3月10日午後2時45分である。また新たな出発点がきたようである。

倉青協よありがとう。倉青協よ永遠なれ。



スペイン・トレドで 山本・私・鈴木(威)

TQC大会について

先輩有志の発案で倉庫業青年経営者協議会が発足し、満20年を迎えますこと心よりお慶び申し上げます。

発足当初より自由闊達な議論により倉庫業界の先頭に立って積極的に事業展開を進めてこられました会員の皆様方のご尽力に敬意を表すると共に、これを温かく見守りご指導とご支援を下さった運輸省ご当局、日本倉庫協会並びに各地区倉庫協会の方々に厚くお礼申し上げます。

この20年を顧みますと物流ニーズも時代と共に大きく変わってきました。貨物流通単位の多品種小ロット化、時間指定納入など荷主企業の要請は多様化し質の高い物流サービスの提供が必要となりました。我々もそれに応えるために様々な取り組みをしてまいりました。

第40回全体会（昭和58年9月）のころは大幅な経済成長が望めない状況下であり、会員各社が社内をより活性化させて自らの手で成長要因を創り出すことが最も必要でした。そのための有効な手段の一つであり、各社が共通して取り上げることのできるテーマはTQCでありました。

倉青協のTQCに対する取り組み方は、最初の2年間で、①取り上げる意義、②TQC委員会の活動方針、の2点について活発に意見交換していくことと、昭和60年6月には発表会まで漕ぎつけられるようにすることでした。

更に、TQCをスムーズに展開させるために全会員に対する啓蒙運動を展開すると共に、各社間の交流の場として第41回全体会（昭和58年11月）では“TQCの導入について”と題した講演会を開催しました。講演会では、すでにTQCを導入している会員会社の導入までの説明と、何のためにTQC活動を行うのかなど、活動していく過程での

苦労話をおりませ、各社が導入しやすい環境作りを促し、啓蒙に努めることができました。

第43回全体会（昭和59年6月）には、武蔵工業大学の俵先生をお招きして「TQCの考え方は一つの経営管理活動と同じである」という内容の講演会を行いました。

その後の名古屋でのTQC研修会（昭和59年9月）は参加者多数のため会場を変更するほどの盛況となり、会員のコンセンサスが得られるようになってきました。

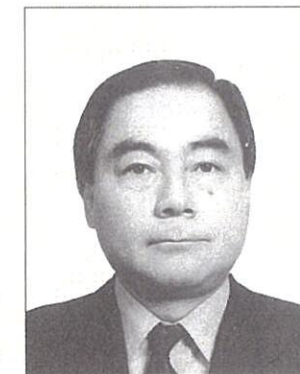
第1回TQC発表会は第47回全体会（昭和60年6月）のあと、今まで勉強された成果の一環として、倉青協はもちろん日倉倶楽部の会社も参加して、好スタートを切り大いに盛り上がりました。審査委員長には俵先生をお招きし、質疑応答も活発に行われ大成功で幕を閉じました。

その後、大阪でのリーダー研修会では26社から92名が参加し、2日間にわたり熱心に研修し、次回の発表会に役立てられるよう環境を整えました。TQC発表会も第2回、第3回と毎年総会時に継続開催し実績を積み上げてきました。

昭和62年6月の第15回総会（第3回TQC発表会開催）において、私は西尾会長の後を引継ぎ、会長職をお引き受け致しました。『倉庫業の明日をめざして力を結集しよう』をメインテーマとし、“みんなが発言する場、何かを得る場にしていく”を抱負とし倉青協の発展に努めました。第4回TQC発表会（昭和63年6月）を終えてみて会員会社にTQCがより一層浸透し各社が地道に取り組まれていることなど総合的に判断した結果、倉青協のテーマの一つからTQCを卒業させようという結論に達しました。

現在TQCは、倉青協並びに日倉倶楽部会員の方々の経営の一助になっていることと確信しております。

最後になりましたが、倉青協のますますのご発展と会員各位のご活躍を祈念申し上げます。



小泉 駿一

第一倉庫株式会社 取締役社長

そうせい訓

- 一、『そうせい卿』になるな。
家来の進言をすべて「そうせい！」と処理してきたお殿様の末路は言うまでもない。
- 一、親や先輩の言うことは聞け。
とかく言いたがるものである。うるさいと思わず、まずは聞く耳を持つことである。あとの判断は自分自身がするもの。ともあれ、オレが言わねば誰が言うとは、やがては諸君も思うこと。
- 一、親や先輩の言うことは聞くな。
時代の移り変わりに気がつかぬとんちんかんな意見が多い。指示待ち族にならぬよう、場合によっては無視する勇気を持って。大事なことは自分自身が判断するもの。たえず自身の意見を持って行動せよ。
- 一、自分の行動が正しい、と思えるようになったらあぶない。
経験を積むにしたがって、自信が増すのは当然である。しかし、それが正しいとの保証はなく、間違っていることに気付かぬ場合が多い。
- 一、倉青協は異業種交流。
決してご同業ではない。各人各様な商いを行っている。したがって考え方も千差万別。むしろ思想の違いをヒントにせよ。

山本信彦
小樽倉庫株式会社 取締役社長



- 一、倉庫業はベンチャービジネス。
誕生は100年ちょっと昔。保管業務を独立させ、商いとしての付加価値を高めた。古い、汚い、暗いイメージの倉庫業も、当時はバラ色のベンチャー企業。現代も商品流通の基本はあまり変わっておらず、その意味からは今でもバラ色に変わりはないはず。そのつもりで。
- 一、変わることは良いことだ。
今でも100年前と変わらぬ頭を持つ経営者は多い。ひたすら変化を恐れ、時代にとり残されてゆく。あなたも有資格者。
- 一、定年延長は禁句。
毎年先輩達が50才定年で倉青協を去ってゆく。少ない例だが去ってほしくない先輩もままいる。だからといって自分も同じと思うのは大間違い。古い時代が去らねば、新しい時代は決して来ない。
- 一、このそうせい訓は現役会員のみが読むべし。OBは読むべからず。
現役諸君の健闘を祈る。

完

創立20周年の倉青協を語り合う。



司会者
大竹広明氏
三信倉庫株式会社
取締役社長



西尾忠朋氏
株式会社西尾倉庫
取締役社長



結城幸彦氏
結城運輸倉庫株式会社
取締役社長



宮崎久雄氏
第一倉庫株式会社
取締役社長



宮崎總一郎氏
清和海運株式会社
取締役社長



上村多恵子氏
京南倉庫株式会社
取締役社長

はじめに

大竹 本日はお忙しい折、遠路お集まりいただきありがとうございます。ご承知のとおり、昭和48年に生まれた倉青協も、今年で創立20周年、いわば成人式を迎えることとなりました。ぜひこの機会に、これまでの事業についてのご感想や、倉青協の今後への指針など、創生期からのメンバーでいらっしゃる皆様からの率直な声を伺いたいと思います。

密度の濃い活動が行なわれていた創生期

大竹 創立当時の先輩方は、経営者としても非常に個性的で、事業の推進の仕方もバラエティに富んだ方が多かったように思います。もちろんこれには時代的な背景もあり、当協議会に限ってのことではないはずですが。

上村 当時の日倉協は、業界の長老を中心としている感があって、40代の会員は、評議委員になってもなかなか発言する機会がなかった。そのような事情がそもそも倉青協創立の発端でもあった。

結城 確かに当時の先輩方は、現在に比べると取り上げる話題も多く、討議も活発だった。10名程度の小人数で、集中的にテーマを掘り下げていく「分科会」の活動も盛んであった。私は「近代化委員会」に所属してしたが、大変熱心で密度の濃い討論が行なわれていたように記憶している。

宮崎久 「分科会」はつねに積極的な討議の場で、これを通して勉強することは非常に多かった。

結城 メンバーのなかには、戦争経験者もいた。戦中・戦後の激動期を体験した方は、前向きな意識や個性が強く、若手だけの会を作りたいという気概にあふれていたように思う。今の若手には、そういうバイタリティーが、少し欠けているのではないかと感じる。

宮崎總 それは現在の環境のなかで、その必要性を感じていないからだと思う。事業を行なう上で制約が少なく、どこの企業で何を行なってもかまわない時代だから、協議会主導の変革を求める必要がなくなってきたのではないかと。

宮崎久 創立当時の当会は、日倉協の青嵐会的な存在であった。新たに組織を創立した以上は、継続し、より意義あるものにしていかねばならない。そういった責任感と義務感を持つ方が多く、彼らが主体となってこの会を牽引してきた。

「全体会」は、新時代を探るアンテナだった。

大竹 次にこの20年間で、「全体会」の開催は70回の多くを数えています。親睦会としての役割も踏まえ、その成果や印象を語っていただきたいと思います。

結城 「全体会」そのものを通して良かったと思える点は、会のほとんどが泊まりがけで行なわれたこと。このことで相互の人間関係が深まったと感じている。地元での会合では、会議後のパーティーが終われば、それで解散となってしまう。

西尾 討論の後に飲む酒の席で、腹をわって対話することができた。後継者の話なども相談できる雰囲気があった。

宮崎總 「全体会」開催地へ向かう道中を共にするように、声をかけたり、スケジュールを調整したりもした。その時点からすでに全体会が始まっていたという印象がある。

宮崎久 最初の印象は、よく飲む人がいるな（笑）であったが、飲みながらも大いに真面目な議論を交わしていた。「日本縦貫倉庫グループ」や「CPクラネット」「押入れ産業」などの発想も、こうしたなかから、いわば自然発生的に生まれたのではないだろうか。

上村 特にためになったのは、TQC。むしろメーカーよりも早い時期から取り組んでおり、7~8社が発表するQC大会は、倉庫業に適した実務的な内容で良い勉強になった。

宮崎總 私も会から会社に持ち込んで実行したことなかでは、TQCがもっとも大きな成果を上げた。

宮崎久 全国各地の会員の会社を見学できたことも良い刺激と勉強になった。森本倉庫さんの竣工式に招いていただいたりしたのも、倉青協でのつながりがあったからこそだと思う。非常にハイレベルな建物で、将来的にも大いに参考になるものだった。ほかにも集団化の倉庫団地、岡山土地倉庫さんの自動倉庫、大黒倉庫さんの鉄鋼倉庫など、各社の倉庫業のあり方も学ばせていただいた。



宮崎久 同じ倉庫業でありながら、会員同士がそれほど競合していないところがメリットだ。地域的に離れていれば、尚更のことだろう。国際倉連への参加にあたっては、諸先輩の力添えに預かるところが大きかった。また、海外の物流施設の視察など、1企業単位ではなかなか難しいことも、協議会全体で実行できた。いろいろ見て、缶詰になって討論し合えるところに大きな意義を感じる。ぜひ、1会長の任期中に1回のペースで継続してゆきたい。

大竹 創立10周年を期に、協議会としての機関紙「そうせい」を発刊したことも、ひとつの事業であったと思います。「そうせい」は30号を数え、協議会内のコミュニケーションの一環を支えるとともに、協議会の歴史を刻む良い財産になっています。

より積極的な ヒューマン・ネットワーク作りを

大竹 現在、倉青協への会員勧誘は、会員の卒業毎に1名を紹介するという方式をとっています。こうした運営方式も含め、協議会の今後の活動について、忌憚ないご意見をお聞かせください。

宮崎久 単なる会合ではなく、それぞれが自由に発言でき、参加した実感をより強く持てるような集いであってほしい。この意味からも、「小委員会制」については賛成である。会員相互の親睦にもさまざまな形が考えられるが、やはり得るところのある性格のものであってほしい。最近5、6年に入会された方やOBの方々が、今の倉青協をどう見ているのか。その辺りも参考にしなければならない。



上村 物流を取り巻く課題を、必ずしも難しく考えるのではないにしても、今、どんなことが業界の問題になっているのか、また、どのようなことを課題として受け止めて解決していかなければならないのか、積極的に取り上げてゆきたい。TQCは、テーマこそ変われ、今後も何らかの形で追求してゆきたい。また研修についても、部課長のレベルでぜひ継続すべきだと思う。

宮崎純 運輸省や日本開発銀行との懇談会なども、今後とも引き続き行ないたい。

西尾 今一度、懇親のスタイルや方法を見直す必要もあろうかと思う。もっと新しい試みを取り入れても良いのかもしれない。

結城 そうですね。協議会の創生期には先輩方が公私につけよく面倒を見てくださった。今の20代、30代の若手がそこまで望んでいるかどうかは別として、我々が能動的にそうしていたかどうか反省すべきところもある。遊び方や趣味、嗜好も変化し、このような会合のあり方も変わってきている。確かにより新しい世代の人と、もう一歩踏み込んで親睦を図れるような工夫も必要だろう。

大竹 趣味やライフスタイルも多様化しているわけですから、飲むこととゴルフばかりではなく、スキーやダイビングを取り入れてもいいわけですね。(笑)

西尾 全体会の講演では、物流に無関係な分野の講師も招くなど、より視野を広げるための活動が展開されてもいい。

宮崎純 自分が卒業し、息子が後継者になれば必ず倉青協に入会させたいと思う。全国規模で、同業の方々と密なコミュニケーションがとれる倉青協の意義は、今後ますます大きくなると考えられる。

大竹 倉庫業に限らず、トップはつねに孤独といわれます。倉青協のような場を有効に活かせば、同じような悩みを持つ人々とフランクに話し合える機会も多くなるはず。そういった場を提供する役割は、今後も大切にしなければと考えます。

次世代の課題は、協議会の原点を 踏まえたタイムリーな運営

大竹 最後に、倉青協の次世代を担う若手メンバーへメッセージをお願い致します。私自身も倉青協は青年経営者の会であるということ、第一の存在意義があると考えますので、基本的には我々が卒業した後は、若い方々が自由に運営してくれて結構だと思いますが、常にいちはやく世情や情報をキャッチすることだけは忘れないでほしいと思います。今何ができるかをリアルタイムで考え、アクティブに行動してゆくのが倉青協の活動の基本ではないでしょうか。



西尾 この会が創立された原点と主旨をつねに念頭に置き、その意味での一貫性というか、筋を通した上で、時代の要請に的確に沿った運営が行なわれることを期待する。

上村 倉青協には、公私ともに人間的なつながりを非常に大切にすることなど、これまで先輩方が築いてきた良い伝統やムードがある。自分自身の事業を的確に評価し、個々人のスタンスをしっかりと守りながら、全国の仲間と人間的な親睦を深め、思いやりのあるメンバーシップを構築していただきたい。

宮崎久 つねに積極的、前向きに課題に取り組んでいてもらいたい。ときには、先輩、OBを何人か呼び出して、ともに話し合う機会をもってみるのも一案であろうと思う。討議の場を活性化することで、新たな意見や発案に出会うこともあるだろう。

大竹 創生期から協議会運営に携わってこられた皆様のお話を伺いますと、あらためて協議会の本質や重要性にふれる思いがいたします。貴重なご意見、メッセージをありがとうございます。20周年をひとつの里程碑に、倉青協の新たな発展を目指し、今後もさらに努力してまいります。これからもご支援、ご指導よろしくお願いたします。



大竹 広明
三信倉庫株式会社
取締役社長

シンボルマークと ビックポケット

シンボルマークの章

「倉庫業青年経営者協議会」なんともいかめしく重々しい名前である。ところがいざ会員を見渡してみると、女流詩人やディレクター崩れ(?)、はたまた自他共に認めるフェミニストから、倉庫業がいやでいやでたまらなかった人まで、それこそ多士済々、あたかも「倉青協」と書かれた金庫を開けてみたら中からゼンマイ仕掛けのおもちゃや、ハンバーガー、外れ馬券などが次から次へと出てきたようなもので、正に名は体を表していないのであります。

そこで第7代小泉会長の発案で、会員意識の高揚と会員外からも親しまれることを目的として、協議会のシンボルマーク作成となったわけです。考えは直ちに実行され、かねてから温かみのあるデザインを手掛けることで定評のあるグラフィックデザイナー金原明彦先生に、いくつかの案を作成して頂き、最終的にYWのマークが決定しました。マークはヤングとウェアハウスの頭文字を横につなげて、清新さと若々しさを表現しています。

シンボルマークは会の内外に広く衆知してもらえよう、オリジナルのレターヘッドとして使用されたり、全体会の看板等で大活躍をしています。

ビックポケットの章

3Kの代表格の総合建設業には“ゼネコン”という愛称があります。新聞や放送出版業界には“マスコミ”という広く知られた呼び名があります。振り返ってわが倉庫業は……。若者にアピールする現代感覚のニックネームが欲しい。これも小泉会長の発案により、業界を一語で表現する、新しくて明るく、躍動感に溢れた名前の募集が開始されました。1989年3月末日で締切った結果、会員および会員会社の従業員の皆様から47点もの応募があり、それぞれが手塩にかけた力作揃い、厳正中立な審査の結果、最優秀作として小樽倉庫(株)吉田汎氏の作品「ビックポケット」が他を圧倒して選定されました。吉田さんの奥様が「ポケット」を提案、誰でも知っている親しみやすい用語に、ご主人が大きなスペースを想像する「ビック」を付け加えられ出来上がりました。何でも入れられる大きなポケット。可愛らしく馴染みやすい愛称。みなさんどうぞよろしく申し上げます。

さて「倉青協」のシンボルマークと異なり「ビックポケット」は一般に気軽にお使い頂くため、前述の金原先生にお願いし、ロゴマークを作成、今回はレターカードと封筒に付けてみました。また各地の会員の倉庫建物の壁面に大きく「ビックポケット」マークを描いて頂くなど、徐々に世間に浸透しつつあります。今後も会員が積極的に利用し、PRすることによって業界イメージの向上に役立つことを祈っております。

終りの章

1992年、サービスマークの商標登録の制度新設に伴い、YWマークとビックポケットマークの双方を登録申請し、倉青協創作のオリジナリティを法的にも確保する手続きを済ませました。

最後に愛称募集で惜しくも佳作となった作品の応募者が受賞式でもらしたひとこと。「倉青協ってほんとにいい会だなあ」をお伝えして報告を終わります。



Young Warehouse



結城 幸彦

結城運輸倉庫株式会社
取締役社長

C・Pクラネットのお話し

それはちょうど9年前の春先のことでした。入社してお茶を飲み終えた頃、「いや～今日は道路の混み具合が激しくて、たった今出社したところなのですが、渋滞に巻き込まれた車中で、ボンヤリと考えていたらアイデアが湧いてきました、早速とばかりにお電話をお掛けしたところなのですが……。」倉青協の大先輩であるにもかかわらず、私のようなガラッパチに対してまで丁寧に明るい口調が、いつもよりはずんで聞こえるその声に、つい引きずり込まれた私は、次の瞬間大きな歓声（大笑い）をあげてしまいました。「例の会社の件ですが、楽器のクラリネットから“リ”を取って、クラネットではいかがでしょうか？ “リ”はお客様にお渡しするという意味合いも含んでいるのですが……。」

その時、「この会社は成功する」と心のうちに大喝采をあげていました。

産業界に機械化・情報化の波が押し寄せていたその頃に、我々も勉強が必要と開設された情報システム分科会をインキュベーターとして誕生した会社のネーミングはこうして決まったのです。

今年、満20年を迎える倉青協と共に歩みつづけ、クラネットも今年8月で10年の営業活動期に入ることを思いますと、一応の感慨を覚えるところです。

人が集まり運営母体としての組織が出来上がると、固有の性格を帯びるもので、構成メンバーのそれに影響され影響しつつ社会経済の流れにゆられながらも働きかけをして、成長を繰り返していくものだと教えてくれたのは倉青協だったような気がいたしております。

現在クラネットでは情報処理振興助成財団の力もお借りしながら2件の実績をあげ、倉庫業を対象とした業務用汎用パッケージソフトを中心にその研究の成果を世に問うに至りました。現社長の安田さんが倉青協の4代目の会長として倉青協10周年の記念式典を催してから早くも10年が過ぎたことを思うとき、この10年の密度以上のものがこれらの10年にもあると考え、心新たに倉青協の20周年を感謝をこめて祝いたいと思っています。

※ C・P = Corporative (法人(共同)の)の略語。

われら若手にとっての倉青協は



樋口恵一氏 (司会)

川崎陸送株式会社
取締役営業第二部長

浅野邦彦氏

浅野運輸倉庫株式会社
営業部次長



小倉康宏氏

岐阜倉庫運輸株式会社
取締役名古屋支店長

斎藤宏明氏

ひかり倉庫株式会社
取締役社長



※本文中は敬称略とさせていただきます。

35才以下のメンバーで、大いに話し合う

樋口 倉青協が20周年を迎えたことを記念に、われわれ4人、35才以下の若手メンバーで、自由に討議できる場をいただきました。今回は、沖縄大会ということで、はるばる各地からお集まりいただいたわけですが、こんなにみなさん家族連れでいらっしやったことは、今までになかったように思います。倉青協の次の次の世代を担う、われわれの娘や息子にも、いつか読んでもらえるような、ぜひ実りあるディスカッションにしたいと思います。

倉青協との出会いは、運命か

樋口 ご承知のように、倉青協には50才定年制があります。先輩方は50才になられると、日倉倶楽部に上がって行かれるため、毎年精力的に新メンバーの勧誘がなされています。われわれも、そういう機会にメンバーに加えていただいた面々ですが、その際、誘われたにしても、入った以上は何かのきっかけがあったと思うんです。まず、その辺りのことからうかがいたいですね。

小倉 きっかけは、森本倉庫さんにご厄介になったことでした。父親も昔倉青協に入っていたものですから、会社としてはすぐOKが出ました。AWJ(日本縦貫倉庫グループ)のメンバーの二世の方々でも、まだ入ってらっしゃる方が少ない時期で、今思うと早かったのかな、と感じます。入会をすすめて、これは入ってがんばらなきゃいけないと思いました。

浅野 私は、平成元年の10月6日に入会しました。商工中金という団体にも、倉青協同様のユース会というのが

ありまして、その日が全国交流大会の日だったんです。そのとき、当時倉青協の会長でいらした小樽倉庫の山本社長と、たまたま同席させていただいたことがきっかけで、「大いに遊び、大いに学ぶ会だよ」とその場で勧誘されてね。父は、日倉協の評議委員をしていた関係で、以前から社長とは面識があったんですが。父にも、以前から、機会があれば入会させていただくように言われてましたし。

樋口 運命的な出会いというわけですか。

浅野 同じ席にならなかったら、まだ入ってなかったかもしれません。会長お墨付きで、入れていただいたわけですね(笑)。

斎藤 私の場合は、父が懇意にいただいている日本流通倉庫の村田社長が、ある日来社され、倉青協の資料と名簿を置いていってくださったんです。で、内容を見たところ、錚々たるもので、「これはちょっと私では…」と思ったものですから、資料と名簿をお返しに行ったんです。そうしたら、その場で社の事業内容とか設立時期とかを詳しくお聞きになり、お応えしたところ、すぐファクスで…「今一人入会斡旋したから」と。(一同笑)

樋口 実は私も、27才ぐらいのときに、第一倉庫の小泉社長からお誘い受け、「倉青協は、日倉協のような普通の業界団体ではなく、新しいことをやろうとする協議会なんだよ」と熱っぽく語られてね。

当時は、私自身も、27、8で入っても…」と思ったんですが、「今こそ20代がたくさん入って、会をかえても

らわなきゃ困るんだよ」と、論されました。小泉さんも行動が早い方で、親父にも、倉青協会長の名前で、私の入会を勧める手紙を書かれたんです。

それで入ったんですが、当時最年少だったんです。ですから、実際に事務局から案内状が届いて、初めて全体会に参加しなきゃならないときは、いやこれは大変なことになったかな、と。皆さんはどうでしたか。初めて倉青協に参加したときの印象などは。

最初は、構えた。驚いた。参った。

小倉 最初は総会にお邪魔したので、OBの方のご列席もあり、重々しい雰囲気だなあとも感じましたが、みなさん非常にさわやかに、あたたかく迎えてくださったのがいちばん印象に残っています。まだ全然活動していない私にも、次から次へと挨拶して下さるんですね。

浅野 私は、最初ちょっと構えてた部分もありました。私の地域では、倉青協自体が、ひとつのブランドイメージを持って受けとられている面がありましたから。

小倉 そういう意味では、私もどなたの後についていけばいいのかな、という思いがありました。何回か出るうちに、お話しできる方ができてきて、これは出るなら最初から最後まで出て、いろいろ蓄積させていただいた方がいいだろう、と思うようになりました。またそんな時に、皆さん適確な質問をなさるんで、これはすごいな、と。

斎藤 私は、TQC活動のグループで発表があったときが最初でした。その活動内容も、大学の先生を招いて、データを公開するなど、非常に密度の濃いもので、これはものすごく窮屈な勉強の会に入ってしまったぞ、と。最初は、どうもいづらくなって、一人でポツンと意気消沈して帰ったような記憶が…(一同笑)。ただ、途中で抜けるくらいなら最初から行かない方がいいわけで、次からは最後まで踏みとどまれば何とかかな、という勢いでした。

樋口 いきなり案内状がきて、高松だったんですね、私は。高松は仕事でも行ったことがなかったのですが、当時瀬戸大橋を作ってる最中で、ずいぶん話題になっていたんです。その竣工前にぜひ一度、ということで、事前にご紹介いただいた小泉さんに、全部お引き回しをいただいたんです。「いちばん若手だから」と。当時20代はいなかったの、ついていけるかな、とも思いました。

倉庫を真面目に考える…

樋口 実際参加してみて、皆さん非常に熱っぽく討論なさったり、理路整然と話したりなさる。すごく倉庫や物流に対して、熱意を持ってらるな、というのを強く感じました。やはり倉青協は、倉庫業を真面目に考える会なん

だ、と。それから、同時に、倉青協は「大いに遊ぶ」会ともなっているわけで、そちらのウエイトの方が高いということにもなっていますが(笑)。飲んでいるときに、同業者としての本音が聞けたように思いました。普通の倉庫協会の集会では決して聞けない話ですから。遊びながらも、そういう場を提供してくれるのが倉青協かな、と感じました。

浅野 われわれは、チャーターメンバー、つまり現社長の次の代ということになるんですが、同じ悩みや不安があるんですね。果たしてやっていけるのだろうか、これで大丈夫なんだろうか、どうすればいいのか、皆どのようにやっているのか、と。そういうことが、本音で話せ、同時に諸先輩の経験も聞かせてもらえる。

樋口 異業種の交流というのがありますが、往々にして、さっぱり話が噛み合わない部分があったりしますね。倉青協の場合は、年1回東京でやり、あと2回全体会を開催する。最初はそのシステムがよく分からなかったんですが、各地で開催するというのもひとつの魅力だと思いました。通常なら仕事と関わりあっているところへしか行けない。倉青協では、見知らぬ土地でも、ホストの方に、通り一遍のものではない案内をしていただける。これなら、参加しても面白いと。

オープンにして、アットホーム

樋口 次に、倉青協のメンバーになって良かったと思うことを、ご自由にどうぞ。

斎藤 開催地が、場合によってはかなり遠いところですから、まず、いろいろな土地を訪れ、いろいろなものを見ることができるのがひとつ。そのなかでも、視察が非常に勉強になりました。物流施設というものは、仕事でいつも目の前にありますから、つい遠くまで出掛けて勉強するのが億劫になりますね。ところが、実際訪れてみると、場所場所で施設も違うし、運営方法も違うのに、あらためて気付かされます。

樋口 具体的には、どんな？



斎藤 最近では森本さんのところがそうですね。開発の規模はもちろん、不同沈下修正構法にも驚きました。同じ業界でも、これだけ進んでいらっしゃるんだな、と非常に勉強になりました。

樋口 うちも、富士ロジテックさんとか、いろいろな倉庫を見せていただきました。倉青協のような輪の中だと、今後こういうものができましたという話があれば、じゃ一度見学させていただきませんか、とお願いもできる。エリア内の同業者だったら、なかなか堂々と見せてくださいとはいいいくいな雰囲気があるでしょう。この会なら、すぐOKがいただける。

小倉 会全体がまとまっていて、アットホームな感じを受けますね。メンバー全体が兄弟みたいなもので、全国的なネットワークの中で、交遊関係も広がりますし。地元と同じ倉庫業界の中では、聞けないこともたくさんありますから。

樋口 自分たちのノウハウを開示しても問題ないし、逆にを見せていただいても特別でないような、オープンな雰囲気があります。おたがい発展的に、忌憚なくお願いできますね。

倉青協は、青年の集まりのはず

樋口 逆に、入会してみて期待外れというか、最初の思惑と違っていたこともあるのではないかなと思うんですが。

浅野 全体会や総会が、一種形式的に思える雰囲気もありますね。その会自体の中で、盛んな議論がしにくいといったような。もうひとつは、地域間の格差で、なかなか発言できないということ。関西圏にしても九州圏にしても、それぞれずいぶん違いますから。倉庫業すべてが、同一線上には進んでいないんです。にもかかわらず、同じ話をしているんですが、メンバーの中心は関東圏ですね。そこで、ちょっとこれは違うんじゃないかなと思いました。

斎藤 皆さん、お酒の席とか懇談会では、非常に活発に本音の話をなさいますが、総会などでは、ほどほど当たり障りのない討論になりがちのように思います。中核メンバーの方だけではなく、全国からみえた多くの方々が、積極的に発言できるような題材を取り上げてもいいのではないのでしょうか。倉青協は、青年の集まりであるはずですから、もう少し柔らかいテーマや内容で、形式張らずに、青年として自由に発言できるような場があってもいいと思います。

浅野 会全体の進行も、時間設定が適正ではなくて、全体会など、議論にふさわしい設定であるかどうか疑問ですね。どうしても、おされて時間が不足気味ということになる。

樋口 視察があって、幹事会があって、全体会、懇談会といういつもの流れでは、必ずどこか尻切れとんぼになってしまいますね。ときには、視察も講演会もない会があってもいいかもしれません。たとえば東京での会は、毎年1回やっているということもありますし、視察ももういいじゃないか、という意見も多く上がってます。それから、会則の変更の問題にしても、ここまでいつまでも決まらないというのはちょっと…。会則はあくまで協議会の基本ですから。

小倉 常任幹事会では、どうなんでしょう？やはり時間的にも短いでしょうし…。

樋口 人数がせばまる分だけ、討議は活発に行われていると思います。



なぜ、新人が出席しなくなるのか

樋口 私も皆さんも、今まで出続けてきて会に残っているわけですが、名前だけ登録されていて、ほとんど出席なさっていない方もいらっしゃいますね。このくらの組織になると、半分くらいの参加率でもすごいですよ、と言われるんですが、この会の本当の面を知らないで、とっつきにくい会だと思って終わっちゃう方もいると思います。やはり最初は、誰かが引っ張ってあげないと不安だろうし。その方のギアが入るまで、会として、ちゃんと面倒を見て差し上げるようなことが必要ではないか、と。

小倉 確かに、新人として入ってきたときの孤独感などは、味わってみたいと分からないものです。われわれは、そういうものをひしひしと感じながらきたので、同じ経験をしている方を、できるだけサポートしなくてはならない。前回の愛媛の大会でも、初めて出席された方を、1日じゅう引き摺り回したんですけどね（笑）。

発見も、感心も、行ったり来たりも、あった

樋口 これは、さきほどの問いにも重なりますが、皆さんが全体会、総会に積極的に参加される理由は、何なのでしょう。

小倉 やっぱり何かを期待できるからでしょうね。会を

運営されてる方には、それだけの勉強をされ、経験を積んでおられる方が多い。そういう力量に、ほれこんでしまうところもありますね。また、打ち上げの楽しさとかも大きな魅力です。

斎藤 積極的に参加できるのは、積極的に参加しやすい環境づくりが、なされているからなんです。年3回というのも、非常に適切で、スケジュールの調整によっては、全部出席するのも可能な回数じゃないでしょうか。設営の巧みさなど、事務局の気配りには、いつも感心、感謝している次第です。小樽にしても、スノーモビルの試乗がありましたし、今回も無人島にわたる企画がありました。いい記念にもなります。

樋口 開催地が、持ち回りで変わって行くので、行ったことのないところに行ける。たとえ観光にしても、真面目に新しい発見があるんです。それに、家族を連れて来てもいい雰囲気がある。これはいいことですね。あと、全体会の中では、TQCの大会をやったという事実。これはすごいことだと思うんです。自分の社に、そういう組織がなかったですからね。それに飲み会とか、アフター5でもいろいろなところに行けるという…（笑）

浅野 清水でやって、広島でやって、東京、神戸、小樽、東京、松山、沖縄と、開催地もかなり全国的に…

樋口 行ったり来たりですからね。ただ少し東北に弱いものがある。東北と、それから北陸ですか。今後は新しい会員も、そちらの方面から（笑）。

この集まり自体も、新しい可能性のひとつ

樋口 では最後のしめくりとして、今後の倉青協に期待すること、あるいは、組織として行ってみたいことなどを、どうぞ。

小倉 私が高校生だった頃、長良川の決壊で、倉庫が被害を受けたことがあったんです。そのときに、倉青協から生まれた日本縦貫倉庫グループの方々に、助けていただいたことがあるんです。私自身は、話しか知らないんですが、倉青協がきっかけで、ずいぶん大切なつながりを持たせていただいているんです。ただ、倉青協も、20周年を迎えたということで、もう一度、できた頃の意味づけをあらためて認識する時期なのではないか、と感じます。全体会や、アフター5の飲み会以外でも、ちゃんと話あえる場を持つことが必要なのではないか、とも。

浅野 倉青協自体も、年齢など、さまざまな層のメンバーで構成されています。今日も、35才以下というかたちで集まって、話のできるグループが、ひとつ生まれたわけですね。ですから、必ずしも年3回という機会だけにとらわれなくとも、同じ悩みや考えを持つ者が集まって、

話し合えるような場を設けたいですね。これは、決して、倉青協を割るとかいう意味ではなく…。私自身、倉庫という形態は、流通がある限り必ず残ると思うんですが、地価や税金の上昇に見合った収益が出ないなら、倉庫業という商売が、この先やっていけるのかな、という不安もあります。けれど、われわれが縦貫グループというようなかたちで会員相互の連携を持っておけば、また違う要素も出てくる。いろんな可能性が考えられる。そういう指針を考えていけるような会も、新たな意味での倉青協ではないのでしょうか。

斎藤 倉青協という名前には、青い、という字が入っていますが、いまの倉青協は、非常に大人の集団になってしまっていて、なにか「青い」部分が欠けているんじゃないか、と思うんですね。ちょっと老成化してきて、守りに回っているというか。5年や10年に一度は、新しい大きな事業みたいなものを興して、会の存在意義を問うようなこともしなければいけないと思います。たとえば会員間の情報交換にしましても、単に手紙のやりとりではなくて、コンピュータやデータベースを使ってみたり。新技術を積極果敢に導入して行くことも重要ではないかな、と思います。

樋口 まさにおっしゃっているように、倉庫は、時代時代の経済の流れに影響されていて、技術革新もある。つい先日まで人手不足の話だったのが、今度は逆に景気の悪い話になったり。常に流動的です。ですから集まりの目的も変わる。倉青協は、そういう受け皿としてのテーブルを設営する協議会であってほしいんです。あるテーブルで皆で話をしたけれど、時代が動いて、新しいテーブルにまた集まる。それでいいと思うんです。なるべく共通の悩みを持っている方々が集まれる場を、提供してあげる。そのかわり、事務局だけに頼るのは問題ですから、全体会で、会長会社に基本的なレクチャーだけしていただいて、あとは各グループで責任を持って話合っていくのも、ひとつの方法でしょう。やはり、われわれみんなが、発言を大にしていかなければ。会には、おおらかにその場の提供をお許しいただくというようなかたちで、いちばん望ましいと考えます。この場が、まさにそのような機会のひとつだったと思います。

熱のこもったお話や、ふだんなかなか取り上げられないことも、フランクに討論していただき、今日はずい時間経過も忘れるようなディスカッションとなりました。われわれ自身も、あと10年、いやそれ以上この会にお世話になるわけですから、より発展的な方向へ、われわれ全員で努力していきたいと思っています。よろしくお願います。ありがとうございました。

倉青協20年のあゆみ

■全体会・総会の記録

1973 (昭48)

- 5.18 **設立総会** 東京 パレスホテル
運輸省 佐藤 政務次官
日倉協 竹内 会長
東倉協 八十島 会長
運輸省 増田 倉庫課長
- 7.20 **第1回全体会** 大阪 ロイヤルホテル
運輸省 増田 倉庫課長
「広い心、受け入れる心、柔かい心の三つの要素を忘
れずに会の運営に当たってほしい」
- 10.5 **第2回全体会** 東京 ホテルニュージャパン
運輸省 増田 倉庫課長
「倉庫の集団化」
中小企業金融公庫 河野 次長
「倉庫業における金融について」

1974 (昭49)

- 2.8 **第3回全体会** 名古屋 都ホテル
東海海運局 山田 運輸部長
「今後の倉庫業のあり方」
- 5.14 **第2回総会／第4回全体会** 東京 東京会館
運輸省 増田 倉庫課長
「48年度間に於ける報告事」
「49年度行政方針について」
河野 参議院議長
「一隅を照らすこれ国宝」
- 7.18 **第5回全体会** 石川 片山津 矢田屋
日倉協 岡田 専務理事
「日倉協活動状況及び強化について」
西川 流通委員長
「国鉄問題について」
前田 財務委員長
1「景気見越しへの指標として」
2「日倉協財務委員会について」
3「これからの倉庫経営について」
- 10.23 **第6回全体会** 神戸国際ホテル
運輸省 増田 倉庫課長
1「倉庫整備5ヶ年計画の推移について」
2「料金改訂問題」
3「税制、金融、財投について」
4「物流行政の指向」
大阪港湾福利厚生協会 川田 理事
「経営者に望むこと」

■一般社会・物流の動き

- 1月 バリでベトナム和平協定調印
- 2月 円、変動相場制へ移行
- 4月 春闘で史上初の交通ゼネスト
- 10月 第一次オイルショックで
トイレットペーパーバニック
- 12月 政府が石油緊急対策要綱決定



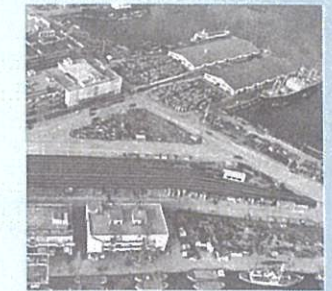
福山通運が北九州支店に導入した
トラック業界初の自動仕分け機

1975 (昭50)

- 3.14 **第7回全体会** 博多東急ホテル
早稲田大学 中西 教授
「転換期に於ける倉庫業について」
運輸省 増田 倉庫課長
- 5.21 **第3回総会／第8回全体会**
横浜ホテルニューグランド
国旗協会 平田 敬量 常任理事
- 7.21 **第9回全体会** 仙台作並グリーンランドホテル
運輸省 近藤 倉庫課長
「これからは低成長が通説になる。現業者は物流に対する
対処は正しいか質的な面で考え直す必要がある」
- 11.1 **第10回全体会** 沖縄不二ホテル
日本銀行那覇支店 河野 支店長
「沖縄復帰後の経済」

- 3月 山陽新幹線が博多まで全通
- 7月 沖縄国際海洋博開幕
- 8月 大手繊維メーカーの興人が
1500億円の負債で倒産
- 11月 公労協「スト権スト」に突入
192時間にわたり国鉄全面マヒ

◆ 物流業者が流通加工業に積極的進出



輸出急増で賑わう横浜港

1976 (昭51)

- 2.13 **第11回全体会** 広島グランドホテル
蚕糸倉庫 花井 社長
「全体会映画」
鈴木 会長
1「遠隔地間での業務提携」
2「物流の中心は倉庫業である」
- 5.28 **第4回総会／第12回全体会**
東京 ホテルニューオータニ
河野 参議院議長
1「事業は環境によって育ち人によって減ぶ」
2「日本で大事なことは食糧問題だ。今日あって明日
の保証はない」
3「サビは鉄から出て鉄を減ぼす」
4「体育、知育、徳育、体に財をたくわえる」
- 7.20 **第13回全体会** 札幌全日空ホテル
日倉協 高味 常務理事
1「損害賠償の問題について」
2「料金問題について」
3「税金問題について」
4「金融面について」
- 10.29 **第14回全体会** 京都グランドホテル
早稲田大学 中西 教授
「レポートによるアメリカの倉庫協会」
京都大学天文学博士 宮本 名誉教授

- 2月 ロッキード事件発覚
- 3月 運輸省が新倉庫整備5ヶ年計画を策定
- 11月 国鉄貨物運賃53.9%値上げ
 - ◆ 荷主の物流子会社作り続出
 - ◆ 小口貨物輸送、内航海運の見直し
 - ◆ 共同配送の具体化
 - ◆ 物流業界の不況長期化
 - ◆ 国鉄運賃の大幅値上げに伴い荷主の
国鉄離れ目立つ
 - ◆ 日本縦貫倉庫グループ誕生
 - ◆ 運輸省がボックスパレット推進へ

■全体会・総会の記録

1977 (昭52)

- 2.18 **第15回全体会** 別府杉の井ホテル
日倉協 岡田 専務理事
1「料率実施委員会の組織の強化」
2「物流について」
大分市 佐藤 市長
「現在の経済情勢及び大分市の現況について」
- 5.20 **第5回総会／第16回全体会** 東京 パレスホテル
運輸省 石井 一 政務次官
「空港問題、国鉄問題について」
運輸省 坪井 倉庫課長
「業界のあるべき姿について」
- 7.22 **第17回全体会** 岐阜長良川ホテル
西濃運輸株 田口 社長
「私の経営路線、理念について」
日倉協 高味 専務理事
「53年度種別財政融資について」
運輸省 坪井 倉庫課長
「業種展望並びに将来予測について」
- 11.9 **第18回全体会** 奈良 菊水楼
日倉協 高味 専務理事
「日倉協の動向について」
薬師寺管主 高田 好胤氏
「南方諸島戦没者慰霊法要の土産話」

1978 (昭53)

- 2.23 **第19回全体会** 浜松グランドホテル
静岡経済研究所 山崎 部長
「経済情勢の現状と将来展望」
- 6.14 **第6回総会／第20回全体会** 東京 パレスホテル
運輸省 坪井 倉庫課長
1「物流全般について」
2「物流子会社に対する問題」
3「自家用倉庫と営業倉庫とのものの考え方」
小此木 参議院議員
「一般情勢及び国会内に於ける委員会の活動状況審議成立等」
- 8.25 **第21回全体会** 箱根プリンスホテル
花王石鹸株 山越 専務取締役
1「物流の問題 花王のシステムについて」
2「倉庫としての流通設計システムをもっているか」
- 10.27 **第22回全体会** 神戸商工会議所
日倉協 高味 専務理事
1「倉庫業法改正について」
2「消費税について」

■一般社会・物流の動き

- 5月 領海12カイリ、200カイリ漁業水域設定
法案が国会通過
経営危機で安宅産業が伊藤忠商事と合併
- 6月 3年8ヶ月ぶりで円相場が1ドル
270円を割る
◆ 不況長期化で倒産が目立つ
◆ 国鉄貨物量の大幅減少
◆ 各種公定料金の値上げ相次ぐ
◆ 「小口宅配貨物」に人気集中

1979 (昭54)

- 3.15 **第23回全体会** 高知 三翠園ホテル
「日倉協報告」
イ.国際倉連、香港大会
ロ.倉庫業海外視察団、今年はヨーロッパを予定
ハ.中国から倉庫視察団が来日
- 6.14 **第7回総会／第24回全体会** 東京 パレスホテル
循方 彰 元NHK解説委員長
「アメリカ、ソビエトの軍需力、平和共存、現在エネルギー問題となっている石油の輸出入等について」
- 8.30 **第25回全体会** 岡山 国際ホテル
岡山大学法文学部 福田 部長
「中華人民共和国と台湾等を旅してみた古い中国」
- 11.18 **第26回全体会** 京都 都ホテル
松尾寺住職 松尾心空師
「人間はこの世の間借り人である」

1980 (昭55)

- 3.28 **第27回全体会** 宮崎 サンホテルフェニックス
自民党農林水産部 近藤 会長
「現在の政治情勢、予算編成の問題点、食糧制度その他の社会問題について」
- 5.28 **第8回総会／第28回全体会** 東京 パレスホテル
日本国有鉄道 高木 総裁
「現在の国鉄に於ける特異な体質、これからの国鉄の経営方針等について」
- 8.8 **第29回全体会** 静岡 修善寺 グランドホテル
修善寺町文化財保護委員会 長倉氏
- 11.17 **第30回全体会** 横浜プリンスホテル
NHKアナウンサー 鈴木 文弥氏
「スポーツ界での指導者から教わったこと、見て感じたこと」

1981 (昭56)

- 2.26 **第31回全体会** 鳥羽国際ホテル
神宮司庁 佐藤 昭典 神宮宮掌
「神宮をささえるもの」
矢野 憲一 神宮権弥宜
「1500年つづくもの」
- 6.17 **第9回総会／第32回全体会** 東京 パレスホテル
新赤坂クリニック 松本 康夫 院長
「攻めの健康法、守りの健康法」

- 1月 米・中外交関係30年ぶり樹立
- 5月 通産省、ガソリンスタンドの日・祝日休業の行政指導強化
- 6月 東京で初のサミット(先進国首脳会議)開催
- 7月 東名高速道日本坂トンネル火災事故で通過車両169台炎上の大惨事
- 11月 第2次オイルショック

- 4月 電力50.8%、ガス45.3%の大幅料金アップ
- 6月 憲政史上初の衆参同時選挙
- 9月 イラン・イラク全面戦争
- 12月 自動車生産台数が1,104万台で世界一に
◆ スリッシートが話題を呼び、研究が盛んになる
◆ 「運送状に印紙貼付」を国税庁から指導要請

■全体会・総会の記録

■一般社会・物流の動き

1981 (昭56)

- 8.28 **第33回全体会** 名古屋観光ホテル
名古屋商工会議所 三宅 重光 会頭
「オリンピックについて」
- 11.20 **第34回全体会** 広島グランドホテル
マキ・レディス・トレーニングルーム 菅原 マキ氏
「経営者のための健康体操」



省力荷役のキメ手としてターミナルに設置された自動仕分け機

1982 (昭57)

- 3.5 **第35回全体会** 熱海 大月ホテル
東京芝浦電気(株) 鬼頭 明 物的流通部長
- 6.24 **第10回総会/第36回全体会** 東京 パレスホテル
東レ(株) 物流担当 堀江 理事
- 8.7 **第37回全体会** 仙台 三井アーバンホテル
山田 新作氏
「リーダーシップ」真珠湾特攻体験を通じて
- 11.18 **第38回全体会** 富山 第一ホテル
北陸経済研究所 杉木 正享 常務理事
「これからの経営課題について」

- 2月 経済企画庁、GNPゼロ成長見通し
東京・ホテルニュージャパンで火災
日航機が羽田沖に墜落
- 4月 500円硬貨発行
- 6月 東北新幹線(大宮～盛岡間)開業
- 11月 中央高速自動車道が全面開通
上越新幹線(大宮～新潟間)開業
- 12月 行政管理庁が通運・トラック事業
規制見直しを勧告
- ◆在庫調整が浸透・営業倉庫の稼働率低下
- ◆物流革新がハードとソフトの両面ですすむ

1983 (昭58)

- 6.17 **第11回総会/第39回全体会** 東京 パレスホテル
東京芝浦電気(株) 山本 直三 OA機器事業部長
「オフィスオートメーション時代の物流業」
- 9.2 **第40回全体会** 札幌 京王プラザホテル
トヨタカローラ札幌(株)
高柳 邦夫 取締役サービス本部長
「サービス業におけるTQCとは何か」
- 11.18-19 **第41回全体会** 川崎 日本電気研修センター
ヘルシーライフ協会 主宰 寒河江 徹氏
「現代病に打ち勝つ健康法」
中京倉庫(株) 鈴木 健二 専務取締役
「TQCの導入について」
日本電気(株) 情報処理流通サービスシステム事業部
沼元 康明 第一販売推進部長
「C&C時代における物流業界情報化の動向」

- 3月 中国高速自動車道が下関まで全面開通
臨時行政調査会が「増税なき財政再建」と最終答申
- 4月 千葉県浦安に東京ディズニーランド開業
- 6月 初の比例代表制(全国区)で参議院議員選挙
国債発行残高が初の100兆円突破
- 8月 金融機関の第2土曜日休日スタート
- ◆物流業のVAN(付加価値通信網)事業への取組が盛んになる
- ◆TQC(品質管理)活動が活発化
- ◆国際倉連東京大会開催



国鉄が東京、大井に開設した東京貨物ターミナル

1984 (昭59)

- 3.8 **第42回全体会** 静岡ターミナルホテル
千葉商科大学商学部 水野 恵司 教授
「ベンチャービジネスについて」
フレッシュシステムズ(株) 高倉 衛 取締役社長
「フレッシュシステムについて」
- 6.22 **第12回総会/第43回全体会**
東京 ホテルグランドパレス
(株)G&G 松田 康之 取締役社長
「中小企業VANについて」
武蔵工業大学 俵 信彦 助教授
「TQCの導入について」
- 9.1 **第44回全体会** 軽井沢プリンスホテル
(株)アトム 片岡 巧男 取締役社長
「スタタイム・ベンチャービジネスについて」
(株)ダイケイ 伊藤 彰彦 取締役社長
「新規事業分野の開発について」
- 11.22 **第45回全体会** 山口 宇部ゴルフ観光ホテル
(株)日本マーケティングセンター
船井 幸雄 取締役社長
「昭和60年代企業経営成功の決め手」
(株)西友 佐久間 仁 住宅用品事業部付部長
「流通業における物流の現状と今後の課題」

- 8月 運輸省機構改革で陸運事務所を陸運支局に改称
- 10月 関西国際空港株式会社設立
- 11月 新札発行、1万円福沢諭吉、5千円新渡戸稲造、千円夏目漱石の肖像
東京・世田谷で地下通信ケーブル火災、銀行オンライン全面マヒ
- 12月 英と中国97年香港返還に調印

1985 (昭60)

- 4.18 **第46回全体会** 大阪 千里阪急ホテル
ミサワホーム(株) 三沢 千代治 取締役社長
「住宅産業の現状と将来展望」
- 6.21 **第13回総会/第47回全体会** 東京 パレスホテル
- 10.3 **第48回全体会** 仙台 ホテル仙台プラザ
東京団地倉庫(株) 西川 謙一郎 取締役社長
「倉庫業に未来はあるか」

- 3月 茨城県つくば学園都市で「科学万博」開幕
- 4月 電電、専売が民営化、日本電信電話(株)、日本たばこ産業(株)として発足
- 8月 日航機が群馬県の山中に墜落し、死者520人
- 9月 道路交通法改正でシートベルト着用義務づけ
- 10月 関越高速自動車道が全面開通
- 11月 運輸省が標準宅配便約款を実施

1986 (昭61)

- 4.18 **第49回全体会** 香川 高松グランドホテル
朝日新聞大阪本社 藤本 高嶺 編集委員
「チャレンジ精神を育てよう」
- 6.20 **第14回総会/第50回全体会** 東京 パレスホテル
第2回TQC発表会
- 10.6 **第51回全体会** 神戸 三宮国際ビル
(株)竹中工務店 河田 剛 開発計画本部副本部長
「土地の有効利用と開発動向について」
三井リース(株) 木地本 武 機械営業部第2部長
「リース事業(レバレッジリース)について」
(株)三井信託銀行大阪支店 市原 賢之助 不動産部次長
「資産の有効活用(不動産信託)について」

- 1月 米国自動車販売数のうち、日本車シェア21.8%に
- 4月 ソ連チェルノブイリ原子力発電所で放射能漏れ事故
男女雇用機会均等法施行
- 8月 標準トランクルーム・サービス約款実施
- 11月 国鉄が東海道・山陽本線でビギーバック輸送開始
- 12月 防衛費1%枠突破

■全体会・総会の記録

1987 (昭62)

- 3.12 **第52回全体会** 定山溪温泉 ホテル鹿の湯
(株)日通総合研究所 森田 稔 専務取締役
「売上税について」
- 6.17 **第15回総会/第53回全体会** 東京 パレスホテル
日本電信電話(株)
式場 英 企業通信システム事業部長
「高度情報社会における企業のニーズと通信の役割」
- 10.3 **第54回全体会** 長野 ロッジ三井の森
懇談会
「運輸省神谷補佐官と倉庫業の未来を語る会」

1988 (昭63)

- 3.28 **第55回全体会** ホテルニューオータニ博多
江頭 光氏
「新博多史 三つの出来事」
- 6.24 **第16回総会/第56回全体会** 東京 パレスホテル
東京大学工学部都市工学科 伊藤 滋 教授
「東京ウォーターフロントに関して
(首都圏並びに全国に及ぼす効果)」
- 11.10 **第57回全体会** 京都ブライトンホテル
運輸省 土橋 正義 貨物流通施設課長
「倉庫業の今後の動向について」
(株)フルベール京都 前田 均 代表取締役
「社員にやる気を起こさせるには」

1989 (平元)

- 3.24 **第58回全体会** ホテル横浜ガーデン
- 6.14 **第17回総会/第59回全体会**
千葉 シェラトンホテル
- 8.31 **第60回全体会** 函館国際ホテル

1990 (平2)

- 3.17 **第61回全体会** 名古屋 ホテルナゴヤキャッスル
愛知学院大学法学部 林 董一 教授
「名古屋の商法を語る」
- 6.22 **第18回総会/第62回全体会** 東京 パレスホテル
スーパーミュージックコーポレーション
高橋 信之 代表取締役
「倉庫業のイメージアップ」
- 10.6 **第63回全体会** 静岡 日本平ホテル
鈴与倉庫(株) 山田 美智子 ホームケアセンター所長
「高齢化社会に向けて」

■一般社会・物流の動き

- 1月 関西国際空港の建設工事着工
- 2月 NTTの株式が初上場
- 3月 標準引越約款・取扱約款実施
- 4月 国鉄分割・民営化でJR6旅客会社
「日本貨物鉄道」発足
- 9月 東北縦貫自動車道が全面開通、
青森市から熊本県八代市まで2,002キロ
が高速道路で結ばれる
- 10月 株価が世界的に大暴落
- 11月 AWJが日本たばこ産業等とタイアップ
して「押入れ産業」を発足
- ◆ 輸送・倉庫業界の国際物流への進出

- 3月 青函トンネル開通
- 4月 本四架橋の瀬戸大橋(児島～坂出間)
開通
- ◆ 運輸省がフレイトビラ実験事業開始
- 5月 運輸省が国際宅配便の利用航空運賃
初認可
- 7月 北陸高速自動車道が全面開通
- 9月 リクルート贈賄疑惑発覚
- 12月 新行政改革推進審議会が物流事業
規制緩和を答申
- ◆ トラック輸送の国内シェア50%超す

- 1月 天皇陛下崩御し、元号が「平成」に
- 4月 消費税導入、キャピタルゲイン課税
とインサイダー規制も実施
- 6月 日米構造問題が決着
- 7月 運輸省が全国6地域をサテライト型
物流拠点に選定
- 10月 東欧諸国民主化で東西ドイツが45年
ぶりに統一
- 12月 物流業界の人手不足深刻化
- ◆ 『貨物自動車運送事業法』と『貨物
運送取扱事業法』の物流二法施行
- ◆ 大気汚染など環境対応で車両運行
規制～モーダルシフトへ

1991 (平3)

- 3.8 **第64回全体会** 広島 安芸グランドホテル
聖心館道場 引地 聖荘 館長
「人生と経営に氣を活かす」
- 6.20 **第19回総会/第65回全体会** 東京 パレスホテル
- 10.25 **第66回全体会** 神戸 三宮国際ホテル
伊藤ハム(株) 伊藤 正視 専務取締役
「神戸レジャーワールドについて」

- 2月 多国籍軍がイラク軍を制圧し、
短期間で湾岸戦争終結
- 3月 トランクルームサービスが伸長、
運輸省は利用者保護の目的で、
“マル適マーク”を導入し、トランク
ルーム認定制度を公布施行
- 新宿副都心に超高層の東京都庁完成
- 4月 牛肉とオレンジの輸入自由化スタート
- 5月 「地価税法」公布、倉庫用地の非課税
が実現
- 6月 雲仙・普賢岳で大規模火砕流が発生
- 7月 陸・海・空の主要物流企業と物流団体
が結集し「日本物流団体連合会」発足
- 12月 ソ連崩壊、独立国家共同体(CIS)に



認定制度の実施で、トランクルーム
サービスの質が問われるようになった。

1992 (平4)

- 3.13 **第67回全体会** 小樽グランドホテル
(株)キロロ開発公社 富井 哲 常務取締役支配人
「キロロリゾートの開発について」
- 6.19 **第20回総会/第68回全体会**
東京 ザ・フォーラム
流通情報ネットワーク卸商連盟
宝子山 嘉一 事務局長
「流通EDIと物流情報ネットワーク」
- 10.23 **第69回全体会** 松山 東京第一ホテル
松山市立子規記念博物館 和田 茂樹 館長
「俳句～子規と松山」

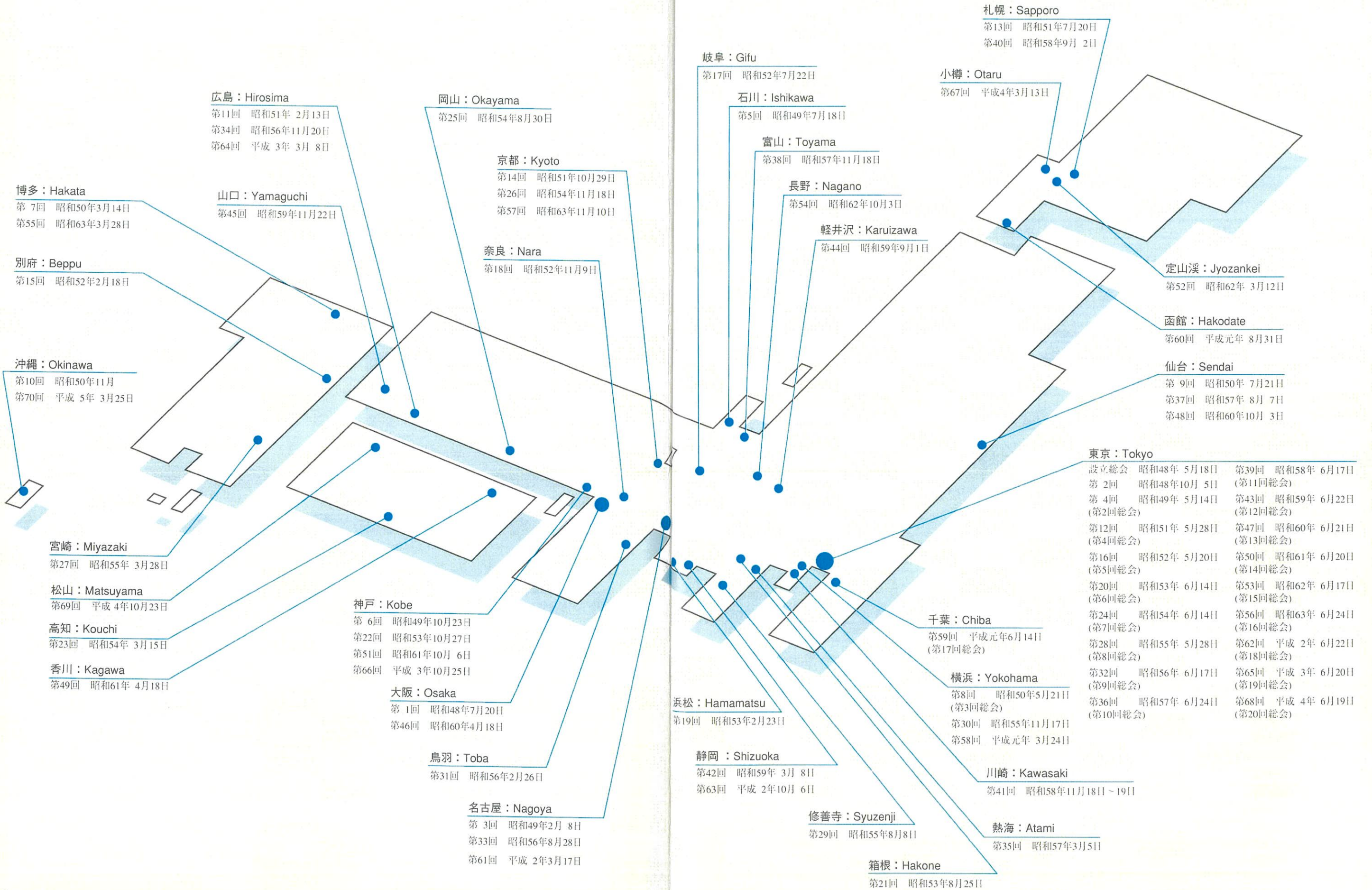
- 1月 運輸省は、リニアモーター関連技術の
物流分野への活用方策を探る
- 3月 東海道新幹線に「のぞみ」が登場、
270Km/hで東京・大阪間は2時間半に
- ◆ 運輸省は環境庁・通産省と共同で
「NOx削減法案」をまとめる、
今後はメタノール車を中心に
- 4月 改正商標法が施行され
「サービスマーク」が登録される
- 6月 PKO協力法案が衆参本会議で可決
「物流EDI研究会」が発足、物流関
係の取引情報等の電子データ交換を推
進するための標準語について研究する
- 9月 カンボジアPKO派遣
- ◆ バブル経済の崩壊

1993 (平5)

- 3.25 **第70回全体会** 沖縄 那覇東急ホテル
沖縄県倉庫協会 有村 喬 会長
「沖縄県第三次開発振興計画について」

- 1月 EC市場統合開始

全国開催地 map



倉庫業青年経営者協議会 会員名簿

会社名	役職名	会員名	〒	所在地	TEL
北海道					
小樽倉庫(株)	取締役社長	山本信彦	047	北海道小樽市港町5-3	0134-23-8161
(株)梶原倉庫	取締役営業部長	梶原明宏	080	北海道帯広市西25南1-1	0155-37-6687
岩手					
徳清倉庫(株)	取締役	佐藤重昭	020	岩手県盛岡市仙北1-13-7	0196-38-1624
宮城					
東邦運輸倉庫(株)	常務取締役	黒川 久	983	宮城県仙台市宮城野区日の出町3-4-21	022-284-2141
蜂谷運輸倉庫(株)	取締役社長	蜂谷孝雄	983	宮城県仙台市宮城野区日の出町3-8-25 日の出事務所3F	022-235-3331
福島					
(株)大善	専務取締役	矢部博道	966	福島県喜多方市西町2840	0241-22-0032
長野					
松本倉庫(株)	取締役副社長	野村俊介	390	長野県松本市南松本2-5-38	0263-25-2106
茨城					
茨城倉庫(株)	常務取締役	太田正明	311-41	茨城県水戸市木葉下町字富士山292-22	0292-51-2211
沼尻産業(株)	総務部	沼尻真一	305	茨城県つくば市榎戸783-12	0298-37-1501
沼尻産業(株)	総務部	沼尻年正	305	茨城県つくば市榎戸783-12	0298-37-1501
ミヤト倉庫(株)	常務取締役	宮戸俊明	306	茨城県古河市平和町1-10	0280-32-0184
(株)渡辺本家倉庫	取締役社長	渡辺 昭	306-01	茨城県猿島郡三和町	0280-76-7171
群馬					
中央自動車倉庫(株)	専務取締役	新井越雄	370-12	群馬県高崎市矢中町668	0273-47-1111
埼玉					
小山企業(株)	取締役社長	小山 利	335	埼玉県戸田市氷川町1-9-9	0484-41-2240
京葉流通倉庫(株)	専務取締役営業本部長	箱守和之	336	埼玉県戸田市河岸3-9-4	0484-45-3201
埼玉運輸倉庫(株)	専務取締役	土田次郎	349-11	埼玉県北葛飾郡栗橋町大字栗橋2744	0280-92-2436
善立産業(株)	専務取締役	星野博史	343	埼玉県越谷市南越谷2-7-6	0489-86-6121
千葉					
木更津倉庫(株)	取締役社長	杉井昭夫	292	千葉県木更津市新宿8-29	0438-37-3313
銚子倉庫(株)	常務取締役	松本恭一	288	千葉県銚子市中央町11-3	0479-22-0137
結城運輸倉庫(株)	取締役社長	結城幸彦	135	東京都江東区深川1-6-29	03-3643-3701
東京					
川崎陸送(株)	取締役営業第二部長	樋口恵一	105	東京都港区新橋3-22-1	03-3434-7211
国立倉庫(株)	専務取締役	三田宣之	186	東京都国立市谷保1108	0425-75-1181
三信倉庫(株)	取締役社長	大竹広明	104	東京都中央区京橋1-1-5	03-3274-2031
佐志田倉庫(株)	取締役副社長	佐志田 徹	135	東京都江東区毛利2-9-20	03-3634-5621
大成倉庫(株)	常務取締役	鈴木 篤	120	東京都足立区千住宮元町28-6	03-3888-4141
多田倉庫(株)	取締役社長	多田恵行	192	東京都八王子市大和田町2-21-15	0426-42-7180
千代田多摩倉庫(株)	専務取締役	秋山裕造	206	東京都稲城市東長沼1212	0423-77-5321
東新通商(株)	取締役社長	高取良雄	108	東京都港区芝浦2-3-31 第2高取ビル6F	03-3453-1403
ひかり倉庫(株)	取締役社長	齋藤宏明	143	東京都大田区城南島2-9-9	03-3790-9091
(株)フコク	専務取締役	阿部 樹代康	140	東京都品川区東大井3-1-3	03-3764-9999
山田倉庫(株)	専務取締役	山田博哉	108	東京都港区海岸3-9-18	03-3453-8151
吉川組運輸(株)	取締役社長	吉川茂喜	133	東京都江戸川区本一色3-39-21	03-5662-0381
渡邊興産(株)	取締役副社長	渡邊裕司	108	東京都港区芝浦2-17-9	03-3451-3692
神奈川					
大宮倉庫(株)	常務取締役	嶋崎幸博	231	神奈川県横浜市中区末吉町3-61	045-251-6501
楠原輸送(株)	常務取締役	花島陽治	221	神奈川県横浜市神奈川区東神奈川2-43-1	045-453-1451
(株)小此木	取締役社長	小此木 歌蔵	230	神奈川県横浜市鶴見区大黒埠頭15	045-506-3221
日新倉庫(株)	取締役	山口将元	210	神奈川県川崎市川崎区浮島4-2	044-266-2241
静岡					
カネニ倉庫(株)	取締役社長室長	大沢寿伸	424	静岡県清水市袖師町1001	0543-65-8181
清和海運(株)	取締役社長	宮崎 總一郎	424	静岡県清水市日の出4-18	0543-53-2131
(株)タキ倉庫	専務取締役	滝 康晃	424	静岡県清水市吉川417-1	0543-45-0448

会社名	役職名	会員名	〒	所在地	TEL
第一倉庫(株)	取締役社長	宮崎久雄	424	静岡県清水市辻1-5-13	0543-67-1311
浜松委託運送(株)	常務取締役	大野木幸司	430	静岡県浜松市板屋町108	053-453-3161
(株)富士ロジテック	取締役社長	鈴木威雄	420	静岡県静岡市紺屋町11-17 桜井第一共同ビル8F	054-273-8500
福富倉庫(株)	取締役社長	森 修彦	410	静岡県沼津市大岡字下耕地2740-2	0559-21-8358
船村興産倉庫(株)	取締役総務部長	船村雅彦	417	静岡県富士市津田216-1	0545-51-0530
愛知					
運搬(資)	営業部部長	渡辺 晃太郎	450	愛知県名古屋市中村区名駅南2-14-19	052-582-5006
岐阜倉庫運輸(株)	取締役名古屋支店長	小倉康宏	485	愛知県小牧市舟津一色980	0568-75-3121
東陽倉庫(株)	倉庫部長	白石好孝	450	愛知県名古屋市中村区名駅南2-6-17	052-581-0251
福玉精穀倉庫(株)	取締役営業企画担当	社本光永	454	愛知県名古屋市中川区月島町1-1	052-361-7237
(株)森吉倉庫	専務取締役	森 通保	491	愛知県一宮市神山1-14-24	0586-45-2121
吉正運輸倉庫(株)	専務取締役	本庄征三	491	愛知県一宮市千秋町加納馬場字米野52	0586-76-2191
三重					
生川倉庫(株)	社長付	生川泰成	513	三重県鈴鹿市国分町650	0593-46-4111
岐阜					
多治見通運(株)	専務取締役	関谷剛一	507	岐阜県多治見市白山町1-32	0572-22-0201
滋賀					
浅野運輸倉庫(株)	営業部次長	浅野邦彦	520-30	滋賀県栗太郡栗東町大字高野588	0775-52-4511
京都					
(株)オリソー	取締役社長	角高 修	615	京都府京都市右京区西京極殿田町5	075-313-2311
京南倉庫(株)	取締役社長	上村 多恵子	601	京都府京都市南区久世中久世町3-104	075-921-3761
大同倉庫(株)	取締役社長	松田 臣	600	京都府京都市下京区中堂寺楠筒町16	075-801-6161
(株)マスタ倉庫	取締役社長	増田結明	617	京都府向日市上植野町尻引1-1	075-931-1136
奈良					
(株)アサヒ倉庫	専務取締役	福本圭志	639-11	奈良県大和郡山市横田町658	07435-7-5001
大阪					
朝日町運輸倉庫(株)	専務取締役	足立菅治	572	大阪府寝屋川市楠根南町1-2	0720-23-0881
サカタ(株)	代表取締役専務	田中宏明	534	大阪府大阪市都島区友淵町2-9-25	06-927-5530
シンク(株)	取締役社長	新川福男	530	大阪府大阪市北区中崎2-8-16	06-924-3550
大日本倉庫(株)	取締役社長	高井栄弥	581	大阪府八尾市安中町4-8-18	0729-91-2001
(株)西尾倉庫	取締役社長	西尾忠朋	530	大阪府大阪市北区西天満3-3-21	06-363-2401
二羽倉庫運輸(株)	取締役社長	木村 宏	538	大阪府大阪市鶴見区横堤4-8-21	06-911-2391
藤浪倉庫(株)	専務取締役倉庫本部長	藤浪秀治	596	大阪府岸和田市小松里町150	0724-45-4364
丸二倉庫(株)	取締役社長	湯川秀男	550	大阪府大阪市西区土佐堀2-2-16	06-441-0536
兵庫					
寺本運輸倉庫(株)	専務取締役	寺本徳成	660	兵庫県尼崎市南初島町17	06-488-7111
森本倉庫(株)	取締役社長	森本啓久	651	兵庫県神戸市中央区浜辺通2-1-30 三宮国際ビル11F	078-231-4951
岡山					
岡山土地倉庫(株)	取締役社長	末長範彦	700	岡山県岡山市本町7-28	0862-22-2529
広島					
井上物流(株)	専務取締役	井上義皓	734	広島県広島市南区宇品神田町3-8-23	082-254-3366
尾道諸品倉庫(株)	常務取締役	亀田龍幸	722	広島県尾道市新浜1-4-22	0848-25-4151
新生倉庫運輸(株)	取締役社長	石井 宏	732	広島県広島市南区西蟹屋3-3-26	082-261-2136
田中倉庫運輸(株)	取締役業務部長	田中 一範	733	広島県広島市西区草津港1-7-8	082-277-2421
中国倉庫運輸(株)	取締役社長	藤田和広	731-01	広島県広島市安佐南区西原5-9-1	082-875-0652
(株)富山倉庫	取締役社長	富山一之	734	広島県広島市南区宇品海岸3-1-69	082-254-4801
(株)ヤマサン	取締役社長	山田 昇	736	広島県安芸郡海田町南堀川町6-15	082-822-7455
(株)ロジコム	取締役社長	大上正治	731-43	広島県安芸郡坂町字北新地12009-3	082-884-1000
香川					
高松臨港倉庫(株)	第二営業部	山田英之	760	香川県高松市城東町1-4-3	0878-51-7611
愛媛					
大栄倉庫産業(株)	常務取締役	廣江和男	791	愛媛県松山市海岸通1455-11	0899-52-1122

会社名	役職名	会員名	〒	所在地	TEL
浜栄港運(株)	取締役社長	村上正純	792	愛媛県新居浜市西原町2-7-63	0897-37-1234
■福岡					
カガミ産業(株)	代表取締役	田中裕人	810	福岡県福岡市中央区平尾3-16-17	092-524-3421
(株)キョーワ	専務取締役	城野隆行	832	福岡県福岡市東区多の津1-20-12 福岡流通センター内	092-622-2361
高砂倉庫(株)	取締役営業推進部長	堀 彰男	810	福岡県福岡市中央区長浜2-5-25	092-751-9231
高光産業(株)	常務取締役	妹尾八郎	812	福岡県福岡市博多区東光2-8-32	092-411-1689
西久大運送(株)	取締役副社長	彌永 忠	813	福岡県福岡市東区多の津2-9-5	092-622-2558
(株)博運社	専務取締役	真鍋博俊	811-22	福岡県粕屋郡志免町大字別府621	092-621-8831
(株)見上	取締役営業部長	見上敬祐	812	福岡県福岡市博多区博多駅南3-5-18	092-431-4161
■沖縄					
有村倉庫(株)	取締役副社長	有村博勝	900	沖縄県那覇市西2-19-1	0988-68-1151
有村倉庫(株)	常務取締役	玉那覇 清勇	900	沖縄県那覇市西2-19-1	0988-68-1151

OB会員

※役職未記入は退職

会社名	役職名	会員名	〒	所在地	TEL
■北海道					
札幌三信倉庫(株)	代表取締役	小野隆央	003	北海道札幌市白石区東札幌六条1-2-30	011-821-4341
大丸倉庫(株)	取締役社長	小林 誠一郎	080	北海道帯広市大通南13-20	0155-24-4228
藤山倉庫(株)	取締役社長	藤山範英	065	北海道札幌市東区東苗穂五条2-6-21	011-781-5131
堀倉庫(株)	常務取締役	堀 知彦	065	北海道札幌市東区苗穂町2-1-5	011-711-7772
■岩手					
平岡海運倉庫(株)	取締役社長	平岡雄司	998	岩手県酒田市船場町1-11-10	0234-26-3326
■宮城					
協和運輸倉庫(株)	代表取締役	高橋信雄	983	宮城県仙台市宮城野区苦竹3-6-10	022-237-7311
東邦運輸倉庫(株)	代表取締役	黒川平司	983	宮城県仙台市宮城野区日の出町3-4-21	0222-84-2141
(株)二興倉庫	取締役副社長	二階堂 久義	983	宮城県仙台市宮城野区日の出町3-8-15	022-236-2881
■福島					
東日本倉庫(株)	取締役社長	馬場宏祐	963	福島県郡山市本町1-4-14	0249-39-0222
■茨城					
ミヤト倉庫(株)	代表取締役	宮戸俊策	306	茨城県古河市平和町1-10	0280-32-0184
ミヤト倉庫(株)	取締役	中村圭佑	306	茨城県古河市平和町1-10	0280-32-0184
■埼玉					
王子倉庫(株)	取締役社長	秋田照雄	336	埼玉県浦和市辻8-12-8	048-839-8211
(株)拓洋	代表取締役	鈴木俊一	340	埼玉県八潮市南後谷652-1	0489-95-4141
東洋倉庫(株)	代表取締役	高橋耕志	344	埼玉県春日部市字内田433-2	0487-54-1040
武蔵野物流(株)	武蔵野物流グループ代表	千代田 利光	341	埼玉県三郷市茂田井220	0489-53-1201
(株)幸松	代表取締役	石井 治	344	埼玉県春日部市大字樋巻542	048-754-1413
■千葉					
木更津倉庫(株)	取締役社長	杉井和夫	292	千葉県木更津市新宿8-29	0438-23-1181
■東京					
尾張屋倉庫(株)		菅間静男	101	東京都千代田区神田須田町2-12	03-3256-6561
共進倉庫(株)	代表取締役	田澤 武	182	東京都調布市飛田給1-34-1	0424-86-4111
芝浦倉庫(株)	代表取締役	関 守	108	東京都港区港南2-13-37	03-3471-1021
昭和倉庫(株)	取締役社長	飯塚明義	164	東京都中野区中野5-30-6	03-3389-4601
千住倉庫(株)	取締役社長	山田勝巳	135	東京都江東区越中島2-1-38	03-3642-1171
第一倉庫(株)	取締役社長	小泉駿一	135	東京都江東区木場2-7-23 第一びる	03-3642-5211
醍醐倉庫(株)	取締役社長	醍醐康之	146	東京都大田区仲池上1-30-3	03-3752-4261
太成倉庫(株)	取締役社長	鈴木又右衛門	120	東京都足立区千住宮元町28-6	03-3888-4141
(株)ダイワコーポレーション	代表取締役	曾根 功	140-91	東京都品川区南大井6-17-14	03-3763-4511
東興(株)	取締役社長	安井敏浩	135	東京都江東区東雲2-5-40	03-3529-0345
東京国際埠頭(株)	取締役企画部長	森 達郎	108	東京都港区海岸3-3-20 東京船舶給水ビル3F	03-3452-4411
東京倉庫運輸(株)	取締役副社長	池田榮一	108	東京都港区海岸3-5-10	03-3453-8261

会社名	役職名	会員名	〒	所在地	TEL
(株)日本テリハリーセンター	常務取締役	岡島全吾	174	東京都板橋区志村1-8-7	03-3969-7161
日本流通倉庫(株)	代表取締役	村田和夫	146	東京都大田区仲池上1-26-8	03-3753-9111
日本流通倉庫(株)		村田一正	146	東京都大田区仲池上1-26-8	03-3753-9111
平田倉庫(株)	常勤監査役	平田敬量	130	東京都墨田区千歳1-1-6	03-3632-6127
山利倉庫(株)	取締役社長	秋山利太	135	東京都江東区千石1-14-21	03-3699-1287
(株)山種産業	取締役会長	山崎誠三	103	東京都中央区日本橋兜町2-30 山種ビル内	03-3820-1109
■神奈川					
湘南倉庫運送(株)	代表取締役	河野鉄雄	254	神奈川県平塚市黒部丘1-19	0463-31-5226
大黒倉庫(株)	代表取締役	安田 肇	230	神奈川県横浜市鶴見区大黒町2-57	045-501-5131
中外倉庫運輸(株)	取締役社長	大西弘文	221	神奈川県横浜市神奈川区金港町1-1	045-461-1181
東西上屋倉庫(株)	取締役社長	渡辺 清治郎	231	神奈川県横浜市中区海岸通り1-1	045-211-2201
日本埠頭倉庫(株)	取締役社長	松木俊武	231	神奈川県横浜市中区北仲通り2-17	045-212-1241
八街倉庫(株)	取締役社長	平野彌七	289-11	神奈川県八街市八街ほ235	043-443-1211
横浜新港倉庫(株)	総務部長	左右田 宗夫	231	神奈川県横浜市中区新港町1	045-201-1551
横浜埠頭(株)	代表取締役	相原 幸太郎	231	神奈川県横浜市中区本町5-49 本町ビル5F	045-201-0982
■長野					
諏訪倉庫(株)	常務取締役	牛山英一	394	長野県岡谷市郷田1-3-1	0266-22-3535
■石川					
丸和倉庫(株)	取締役社長	丸山 弘	920	石川県金沢市磯部町ハ71	0762-52-0231
(株)吉田倉庫		吉田春紀	921	石川県金沢市米泉町7-28	0762-41-3181
良川織物運輸(株)	代表取締役	田中治夫	929-18	石川県鹿島郡鹿島町二宮ハ部133	0767-76-1334
■富山					
富山倉庫(株)	代表取締役	荻布 啓四郎	930	富山県富山市栄町3-2-32	0764-24-4708
八島(名)	代表社員	八嶋佑二	934	富山県新湊市庄西町2-4-16	0766-84-3173
■静岡					
遠州運輸倉庫(株)	代表取締役	伊藤憲司	430	静岡県浜松市白羽町135	053-441-2814
寿倉庫(株)		剣持康男	424	静岡県清水市辻2-1-31	0543-66-1181
佐藤倉庫(株)	代表取締役	佐藤仁士	411	静岡県三島市梅名字下作道417	0559-77-3387
沼津通運倉庫(株)	取締役社長	永倉芳郎	410	静岡県沼津市本白銀町180-1	0559-63-0416
浜松倉庫(株)	取締役社長	中山正邦	430	静岡県浜松市板屋町494	053-453-0151
船村興産倉庫(株)	代表取締役	船村佳彦	417	静岡県富士市津田216-1	0545-51-0530
松葉倉庫(株)	代表取締役	松葉義之	426	静岡県藤枝市下当間645	054-643-1411
(株)山清倉庫	取締役社長	山田 勇次郎	417	静岡県富士市今泉187-1	0545-52-6881
■岐阜					
岐阜倉庫運輸(株)	取締役相談役	小倉 満	501-61	岐阜県岐阜市外柳津町流通センター3-1-6	0582-79-3111
濃飛倉庫運輸(株)	取締役社長	尾関尚司	500	岐阜県岐阜市橋本町2-20	0582-51-0111
■愛知					
伊藤倉庫(株)	専務取締役	伊藤正孝	464	愛知県名古屋市千種区千種1-15-1	052-732-1281
運搬(資)	代表社員	渡辺久壘	450	愛知県名古屋市中区区名駅南2-14-19	052-582-5006
尾州倉庫(株)	取締役社長	藤原基弘	491	愛知県一宮市新生3-8-1	0586-45-3331
(株)萱場倉庫	代表取締役	大津勝也	488	愛知県尾張旭市西山町2-17-7	052-771-9143
高末(株)	取締役社長	高村武彦	456	愛知県名古屋市熱田区横田2-4-26	052-683-6121
中京倉庫(株)		清水 修一郎	456	愛知県名古屋市熱田区六野2-1-3	052-871-5211
中京倉庫(株)		堀田久弥	456	愛知県名古屋市熱田区六野2-1-3	052-871-5211
中部日本倉庫(株)	取締役社長	水野 勤	454	愛知県名古屋市千川区玉船町1-1	052-651-8291
東海倉庫(株)	取締役社長	森田 進	491	愛知県一宮市八幡4-1-16	0586-45-7181
東陽倉庫(株)	取締役社長	白石信喜	450	愛知県名古屋市市中区名駅南2-6-17	052-581-0251
豊橋倉庫(株)	非常勤役員	花井利夫	440	愛知県豊橋市向山町字一本松1-1	0532-54-1138
名古屋倉庫(株)		高橋正守	460	愛知県名古屋市中区栄3-1-22	052-651-3371
長谷川運輸(株)	代表取締役	堀田忠夫	451	愛知県名古屋市西区浅間2-4-20	052-521-6163
福玉精穀倉庫(株)	代表取締役副社長	社本宮明	454	愛知県名古屋市中川区月島町1-1	052-361-7237
三雪倉庫(株)	代表取締役	岡田克己	454	愛知県名古屋市中川区外新町4-43	052-351-2321

会社名	役職名	会員名	〒	所在地	TEL
豊橋倉庫(株)	代表取締役社長	石川 顕次	440	愛知県豊橋市向山町字一本松1-1	0532-54-1138
脇田運輸倉庫(株)	取締役会長	脇田 勇	450	愛知県名古屋市中村区名駅南1-28-31	052-582-1801
■三重					
生川倉庫(株)	取締役社長	井上忠利	513	三重県鈴鹿市国分町650	0593-74-2111
日本トランスティ(株)	取締役社長	小菅弘正	510	三重県四日市市千歳町6-6	0593-53-5211
■京都					
(株)東洋倉庫	代表取締役	岸本良三	601	京都府京都市南区吉祥院蒔絵南町11	075-661-5388
丸正倉庫(株)	代表取締役	糸井正明	617	京都府向日市上植野町芝ヶ本10	075-931-2191
吉井倉庫(株)	代表取締役	吉井文昭	607	京都府京都市山科区西野大鳥居町8	075-581-5088
■大阪					
貝塚倉庫(株)	取締役社長	南 栄治	597	大阪府貝塚市西町14-3	0724-32-6776
大日本倉庫(株)	取締役社長	高井榮彌	581	大阪府八尾市安中町4-8-18	0729-91-2001
(株)天満倉庫	代表取締役	小西池 庸吉	530	大阪府大阪市北区西天満1-9-18	06-363-2491
鳥居運送(株)	代表取締役	鳥居正俊	546	大阪府大阪市東住吉区今林3-1-55	06-758-7778
中谷運輸(株)	取締役社長	中谷庄八	552	大阪府大阪市港区海岸通1-5-22	06-572-5021
延原倉庫(株)	代表取締役	延原久雄	531	大阪府大阪市北区大淀北1-6-5	06-451-0751
平田倉庫(株)	大阪支店課長代理	平田 富沙生	570	大阪府守口市佐多中町3-16-27	06-905-1151
(株)松菱	取締役社長	松尾忠治	550	大阪府大阪市西区西本町2-1-30	06-532-5021
丸山物流(株)	取締役社長	小田真弘	552	大阪府大阪市港区弁天6-2-8	06-576-6030
■奈良					
(株)三和倉庫	取締役社長	安川隆三	639-21	奈良県北葛城郡新庄町大字北花内639	07456-9-2891
■兵庫					
(資)いずみや商事	営業部長	前田武治	663	兵庫県西宮市甲子園5-6-4	0798-33-6528
川西倉庫(株)	取締役社長	川西章二	652	兵庫県神戸市兵庫区七宮町1-4-16	078-671-7931
篠崎倉庫(株)	取締役社長	篠崎 治	650	兵庫県神戸市中央区元町高架通3-279	078-341-6721
(株)神和	取締役社長	本多博明	650	兵庫県神戸市中央区東町113 大神ビル	078-321-3361
大一倉庫(株)	代表取締役社長	岩井寛剛	670	兵庫県姫路市神田町3-5	0792-97-5600
(有)月岡倉庫	取締役社長	月岡清市	658	兵庫県神戸市東灘区魚崎南町3-176	078-451-7120
寺本運輸倉庫(株)	代表取締役	寺本貴至	661	兵庫県尼崎市南初島町17	06-427-7111
(株)都倉商店	代表取締役	都倉 紘三郎	672	兵庫県姫路市飾磨区加茂203	0792-35-1148
播州倉庫(株)	取締役社長	小原直作	670	兵庫県姫路市市之郷町4-1	0792-82-2374
森本倉庫(株)	代表取締役会長	森本禎二	651	兵庫県神戸市中央区浜辺通2-1-30 三宮国際ビル11F	078-231-4951
横山倉庫(株)	取締役社長	横山吉雄	651	兵庫県神戸市中央区磯上通8-1-5	078-231-5311
吉川倉庫(株)	代表取締役社長	吉川勝裕	660	兵庫県尼崎市西長州町2-2-50	06-482-1313
■和歌山					
(株)芦原倉庫	取締役社長	芦原晏彦	640	和歌山県和歌山市本町9-3	0734-23-9377
ニシコー(株)	相談役	西本雄之	641	和歌山県和歌山市六番町24 ニシ(和歌山ビル6F)	0734-24-5024
■岡山					
宇野港倉庫(株)	取締役社長	加藤 厚	706	岡山県玉野市宇野1-17-17	0863-31-2345
(株)昭和倉庫		工藤恒正	701-01	岡山県岡山市大内田725	0862-93-5721
富士倉庫(株)	取締役社長	安原健男	700	岡山県岡山市大元駅前9-1	0862-22-0959
■広島					
井上物流(株)	取締役社長	井上 武	734	広島県広島市南区宇品神田3-8-23 宇品ビル3F	082-254-3366
呉賀倉庫運輸(株)	取締役社長	大之木伸一郎	737	広島県呉市昭和町6-6	0823-22-5250
芸備倉庫(株)	取締役社長	古川浩司	732	広島県広島市東区東蟹屋町18-31	082-262-4141
山陽倉庫(株)	常務取締役営業部長	松原輝夫	730	広島県広島市中区吉島東1-22-2-2	082-240-4551
新生倉庫運輸(株)	取締役副社長	河原宏暢	732	広島県広島市南区西蟹屋3-3-26	082-261-2131
田中倉庫運輸(株)	代表取締役	田中 勝	733	広島県広島市西区草津港1-7-8	082-277-2421
(株)ヨコソー	取締役社長	香川源治	736	広島県安芸郡海田町南本町1-3	082-823-4461
■愛媛					
(有)広栄倉庫	代表取締役	花井典紀	498	愛媛県桑名郡本曾岬町大字白鷺字白鷺川622	0567-67-0123
浜栄港運(株)	非常勤監査役	加藤正浩	792	愛媛県新居浜市西原町2-7-63	0897-37-1234

会社名	役職名	会員名	〒	所在地	TEL
■香川					
高松臨港倉庫(株)	代表取締役社長	山田 勇	760	香川県高松市城東町1-4-3	0878-51-7611
高松臨港倉庫(株)	常務取締役	山田頼明	760	香川県高松市城東町1-4-3	0878-51-7611
■高知					
協和倉庫(株)	代表取締役	岡崎恭三	780	高知県高知市棧橋通4-1-28	0888-31-5288
■福岡					
高砂倉庫(株)		藤野初馬	810	福岡県福岡市中央区長浜2-5-25	092-751-9231
高光産業	取締役社長	妹尾隆一郎	812	福岡県福岡市博多区東光2-8-32	092-411-1689
東垂倉庫(株)	取締役社長	小幡安男	813	福岡県福岡市東区多の津1-20-8	092-622-2366
西久大運送(株)	取締役社長	彌永 清	813	福岡県福岡市東区多の津2-9-5	092-622-2558
日米倉庫(株)		小畑憲治	810	福岡県福岡市中央区那ノ津3-11-20	092-761-2483
博多榮龍倉庫(株)	取締役社長	八尋 脩	812	福岡県福岡市博多区沖浜町2-25	092-291-4126
初村第一倉庫(株)	取締役社長	初村一男	812	福岡県福岡市博多区吉塚8-5-75	092-611-2681
扶桑倉庫(株)	取締役社長	福井博毅	810	福岡県福岡市中央区天神5-7-1	092-771-1171
(株)見上	代表取締役社長	見上 肇	812	福岡県福岡市博多区博多駅南3-5-18	092-431-4161
(株)見上		高林純一	812	福岡県福岡市博多区博多駅南3-5-18	092-431-4161
(株)見上		加生 幸治郎	812	福岡県福岡市博多区博多駅南3-5-18	092-431-4161
(株)見上		寺崎義久	812	福岡県福岡市博多区博多駅南3-5-18	092-431-4161
(株)見上		大塚智照	812	福岡県福岡市博多区博多駅南3-5-18	092-431-4161
邑本倉庫(資)	代表社員	邑本 昭	801	福岡県北九州市門司区浜町10-16	093-321-0417
吉田倉庫(株)	代表取締役	吉田 又一郎	812	福岡県福岡市東区箱崎ふ頭1-24	092-651-4865
■佐賀					
鳥栖倉庫(株)		笠井士郎	841	佐賀県鳥栖市藤木町2374	0942-82-2145
■熊本					
(名)早川倉庫		早川礼三	830	熊本県熊本市万町2-4	096-352-6044
増永倉庫(株)	代表取締役	増永 衛	862	熊本県熊本市流通団地2-17	096-377-2551
■大分					
大成倉庫(株)	取締役副社長	安藤一郎	870	大分県大分市豊海4-2-1	0975-33-1118
葉秀倉庫(株)	取締役社長	葉師寺康弘	870	大分県大分市豊海1-3-2	0975-37-1111
■鹿児島					
薩摩倉庫(株)	代表取締役	岩男秀彦	892	鹿児島県鹿児島市城南町36	0992-22-1330
■沖縄					
有村倉庫(株)	代表取締役会長	有村 喬	900	沖縄県那覇市西2-19-1	098-868-1151

物故会員					
北海冷湿倉庫(株)		伊藤博明	060	北海道札幌市中央南一条西7丁目 川原ビル	011-221-4624
蜂谷運輸倉庫(株)		蜂谷 喜八郎	983	宮城県仙台市宮城野区日の出町3-8-25	022-235-3331
大利根倉庫(株)		中島正雄	373	群馬県太田市大字内ヶ島1038	0276-45-8254
みづほ倉庫(株)		奥隅 陸	330	埼玉県大宮市北袋町1-323	048-641-6521
大木倉庫(株)		大木 保	271	千葉県松戸市栄町7-531	0473-62-6056
芝浦倉庫(株)		関 一統	108	東京都港区港南2-13-37	03-3471-1021
イヌイ建物(株)		乾 宏年	104	東京都中央区銀座5-9-9 松坂屋第二別館	03-3572-4561
(株)森吉倉庫		宇佐美良樹	491	愛知県一宮市神山1-14-24	0586-45-2121
内山精穀倉庫(株)		内山照美	441	愛知県豊橋市牟呂町字扇田81	0532-45-8191
長谷川運輸(株)		長谷川 猛	451	愛知県名古屋市中区西区浅間2-4-20	052-521-6163
草津倉庫(株)		平井庄兵衛	525	滋賀県草津市大路1-13-25	0775-62-2074
森本倉庫(株)		森本文三	651	兵庫県神戸市中央区浜辺通2-1-30 三宮国際ビル11F	078-231-4951
(株)富山倉庫		富山 雪太郎	734	広島県広島市南区宇品海岸3-1-69	082-254-4801
岡山食糧倉庫(株)		小橋利明	701	岡山県岡山市福富167	0862-62-0033
葵倉庫(株)		浜口圭三			



倉庫業青年経営者協議会 会則

附則/1977年4月1日 改正

第一章 総則

(名称)

第一条 本会は倉庫業青年経営者協議会と称する。

(事務所)

第二条 本会の事務所は会長会社に置く。

第二章 目的及び事業

(目的)

第三条 本会は会員相互の親睦と協力により、倉庫業の発展及び社会的地位の向上を図り、物流革新に対処し倉庫業の基盤の確立進展に寄与することをもって目的とする。

(事業)

- 第四条
1. 監督官庁をはじめ、政界学識経験者の講演並びに懇談会の開催。
 2. 日倉協及び各地区協会に対する要望事項。
 3. 監督官庁をはじめ関係先方面に対する要望及び情報交換並びに資料収集。
 4. その他目的推進のため必要な事業。

第三章 会員及び会費

(会員)

第五条 本会は①原則として倉庫業を主たる業務として経営し、その代表権を有する者。②50歳未満の日本倉庫協会加盟の者であり、本会の主旨に賛同する者をもって組織する。

(運営費)

第六条 本会の運営費は会費及び寄附金その他の収入をもってこれに充てる。

(会費)

第七条 会員は入会金 10,000 円と会費として年額 40,000 円を提出するものとし、毎年 6 月に納入するものとする。

(会計年度)

第八条 本会の会計年度は 4 月 1 日に始まり 3 月 31 日に終わる。

第四章 役員

(役員)

第九条 本会に次の役員を置く。

会長	1名
副会長	3名
常任幹事	25名
	1、北海道・東北 2、関東 3、東京 4、中部北陸
	5、近畿 6、神戸 7、中国・四国 8、九州・沖縄
監事	3名

会長は総会に於て会員中より選出する。

副会長、常任幹事及び監事は総会に諮り、会長が委託する。

(職務)

第十条 会長は本会を代表し会務を統轄する。
副会長は会長を補佐し、会長事故あるときその職務を代行する。
常任幹事は本会の運営に参画し重要事項を審議する。
監事は本会会計の監査に当る。

(役員任期)

第十一条 役員任期は 2 年とする。
尚、補欠選任された役員は前任者の残存期間とする。

第五章 会議

(会議)

第十二条 本会の会議は総会、全体会及び常任幹事会とする。
全体会及び常任幹事会は毎年各 4 回開催を原則とし、会長これを招集する。

(権能)

第十三条 定時総会は毎年六月に招集し次の事項を議決する。
1. 予算及び決算に関する事。
2. 事業計画に関する事。
常任幹事会は次の事項を議決する。
1. 総会に関する事。
2. 事業計画の実施運営に関する事。
3. その他必要と認める事項。
4. 緊急を要する事案で、総会を開催する暇なき場合は常任幹事会をもって総会にかえることができる。但し、次期総会において承認をもとめるものとする。

(議決)

第十四条 本会の議決はすべて出席会員の過半数による。但し、可否同数なるときは議長これを決する。

第六章 雑則

(会則の改廃)

第十五条 本会則の改廃はすべて総会の議決による。

(内規)

第十六条 本会則の運営上必要な内規は常任幹事会の議決による。

(入会及び脱会)

第十七条 入会及び脱会しようとする者はその旨、書面をもって会長に届出するものとする。

(OB会員)

第十八条 シニア会員とし、会員資格は一般会員同様参加、発言は自由とする。
但し、議決権利と役員(正・副会長、委員長、常任幹事、監事)の就任の権利を有さない。